一般社団法人 日本自動車車体工業会・会報（季刊発行） 2025年3月15日発行・第62号1巻

車体NEWS

SPRING 2025 春

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.

ブラシ式路面清掃車
（詳細はP.37を参照）

CONTENTS

巻頭言 …… 2
NEWS特集
「2025年度税制改正大綱」の概要 …… 3
カーボンニュートラル対応　第15回 …… 5
NEWS FLASH
本部だより …… 7
部会だより …… 10
支部だより …… 14
官公庁だより …… 15
月度活動状況 …… 17
会員情報 …… 20
NET WORK　Vol.118
㈱アイバワークス …… 21
VOICE　STAGE 106
㈱東海理化 …… 23
㈱パトライト …… 24
そこが知りたい　第65回　「クルマのサブスクとは?」 …… 25
働くクルマたち　第48回　「コンテナ輸送車」 …… 27
COFFEE BREAK …… 29
いどばた会議　第21回　「私のSDGs　Part12」 …… 31
我が社の元気人 …… 33
DATA FLASH
2024年4月～2025年1月　会員生産状況概要 …… 34
編集後記 …… 37

URL:www.jabia.or.jp/　E-mail:info@jabia.or.jp

人々をわくわくさせる安全で快適な移動環境の提供を通じて社会に貢献する

中京車体工業株式会社

Chukyo Auto Body Inc.

すべてはお客さまのために
こんな車があったら・・・
そんな夢を現実にします

襲撃に耐えられるよう防護ネットを装着

どんなバスにも適合する独自の豪華シート

今までにない専用シートを新車に装着

側面ドアを加工し車椅子用リフトを装着

バスマニア集まれ！

世にない車を生み出し 共に未来を変えよう

中京車体工業株式会社
Chukyo Auto Body Inc.

本　社
〒470-1141 愛知県豊明市阿野町三本木17番1
TEL:0562-98-0020 FAX:0562-98-0021 https://syatai.jp

巻頭言

次世代に伝えていきたい事

トラック部会長　山田　和典
山田車体工業㈱・代表取締役社長

皆様のご支援を賜りながら、トラック部会長として6年目が終了しようとしています。

この間、コロナ禍対応もありましたが、2022年度からは本格的な面着での活動ができました。年4回の定例会、秋季の工場見学会や4月の総会と、トラック部会会員各社の皆様は、ほとんどが中小会員で、似通った生業であるため、一度集まれば話題は絶えず、また同族系企業が多いことから時には事業承継の話題もあり、有意義な議論や活動ができていると思われます。部会員各社の事業所が各地に点在しており、遠方のユーザーへのアフター対応などでは、相互に補完することで良いアライアンスができていることと思われます。

会員各社の現況といたしましては、今年度前半まで影響が残りましたトラックメーカーシャシ供給問題もほぼ解消しましたが、受注残は1年以上抱えている状態となっています。

昨今の問題としましては、ここ数年の原材料費高騰や人件費増また採用難の影響を受け、各社の生産能力が減少しているため、受注に対する生産対応が困難になっていることがあります。例を挙げれば、塗装工程などは各社深刻な人材不足になっており、外部業者も減っているため、対応が厳しい状況です。各社の生産車種におきましても、幅広い生産車種の対応が困難になってきており、選択と集中で生産車種を絞っていく傾向にあります。そのため、一部の車種においては長い場合3年以上の納期がかかるものも出てきています。今後は厳しい状況の中、お客様へ一刻も早く製品をお届けできるよう、各社の更なる対応が必要となってくると思います。

一方、車体工業会の重要課題でありますカーボンニュートラル活動では、部会内各社の活動の理解度は深まってはいますが、すぐにできること、費用をかけて計画的に取り組むことなど、取組み方について悩む声も聞こえています。まずは比較的費用の掛からない省エネ事例や視点ポイントなど、情報提供を積極的に行い、CO_2排出量算出のためのデータ提出については提出率の向上、また、ISO取得会員などの先進事例の共有など会員支援を進めて参りたいと思います。

日本の中小企業が抱える最大と言っても過言ではない問題として、「後継者不足による事業承継難」があります。中小会員で構成される当部会も、既にM&Aによる事業譲渡による第3者承継も一部で行われているが、将来の問題として事業承継問題は各社の悩みとなっています。このような状況の中、我々が努力して事業を継続していく事、次世代に技能技術を伝承していく事には大きな意味があり、それは我々の使命と言えると思います。車体工業会全会員に視野を広げても、「その1社でしかできないクルマ」は確かに存在し、もしその技術が途絶えてしまえば、社会経済にとっての損失と言えると思います。我々の作る「働くクルマ」は、お客様の事業や、社会インフラ、経済活動といった広い分野で必要不可欠となっていると思われます。これからも世の中に「働くクルマ」を送り出していくために、我々が取り組むべきこととして、我々の存在、仕事内容、社会に対しどのような貢献をしているかなど、もっともっと知ってもらう事、特に若い世代に興味を持ってもらう事があると思います。まずは会員各社の一員として次世代を担う多くの若き世代に加わってもらい、各社の技能技術を伝承していく、特に「その1社でしかできないクルマ」を作り続けていくことが必要だと思います。

次世代を担う若い世代の方々には、架装という仕事の面白みや奥の深さを知っていただき、自分たちの送り出したクルマが社会の様々な場面で活躍しているというこのやりがいを感じながら、一人でも多くの方々と働いていけることを望みます。

末筆ながら、車体工業会会員各社、益々の事業の発展を祈念しております。

「2025年度税制改正大綱」の概要　中央業務委員会

NEWS 特集

政府は2024年12月20日に「2025（R7）年度税制改正大綱」を閣議決定した。
当会からは自動車関係21団体で構成する「自動車税制改革フォーラム」を通して、自動車関連及び中小企業税制について別表のとおり要望した結果について報告する。

1. 全体概要（自動車関係諸税 総合的な見直しの基本的考え方）

自動車戦略やCN目標実現等を踏まえた財源確保を前提に、中長期視点で総合的に検討し、以下は2026(R8)年度税制改正において結論を得る

1）車体課税の見直し：取得時課税のあり方、公平・中立・簡素な保有時税負担のあり方

2）利用に応じた負担の適正化に向けた課税の枠組み

：異なるパワートレイン間の税負担公平性、将来の安定的な財源確保、ユーザーの納得感

2. 自動車関係諸税に関する改正分

1）新規登録から13・18年経過車の重量税率特例措置について規定の整備を行う

2）環境性能割各措置の適用期限を2年延長する

適用車種：　一般乗合用バス、ノンステップバス・リフト付バス・UDタクシー、衝突被害軽減制動装置付バス・トラック(トレーラ除)

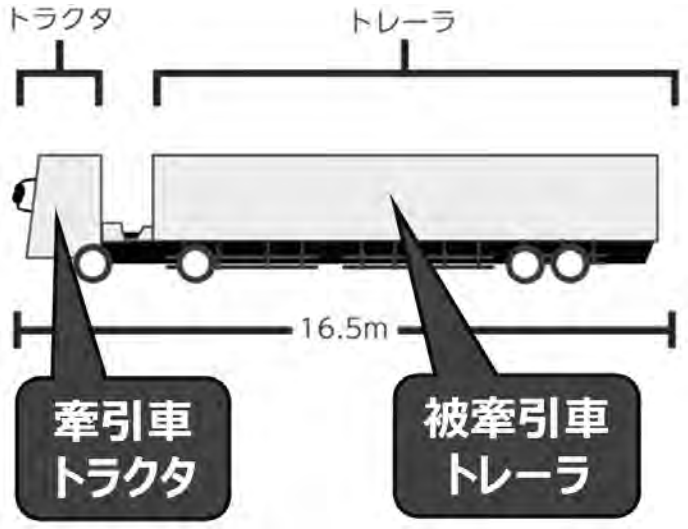
3. 当会要望に対する結果

	当会要望		結果
自動車関連税制	自動車税／軽自動車税	国際的適正水準な税体系へ見直し、初年度月割課税廃止	**見直し・廃止には至らず** **但し、** **1）車体課税の見直し** **2）負担の適正化に向けた課税の枠組み** **については、2026(R8)年度税制改正に織り込む**
	自動車重量税	将来的な廃止を目指し、まずは「当分の間税率」の廃止	
	環境性能割	被牽引車(トレーラ)についての車両区分への明記と対象からの除外を含め、課税のあり方の抜本的な見直し 理由：トレーラは大型車に区分(車両区分への明記なし)、自家用3%/営業用2%の税率が適用 牽引車であるトラクタが環境性能割を負担しており、トレーラへの適用は過大	
	不合理な燃料課税の見直し	ガソリン税/軽油引取税に上乗せの「当分の間税率」廃止、ガソリン税/石油ガス税等のTax on Taxの解消	**ガソリン暫定税率廃止は継続協議**
	財源確保のための自動車関係諸税（車体・燃料課税等）の新税創設及び増税には反対		**新税創設・増税はなし**
中小企業税制	中小企業法人税軽減税率の拡大	中小企業を対象とした軽減税率の更なる低減等を要望	**期限2年延長、一部15→17%**
	税法上の中小企業定義見直し	中小企業基本法に合わせて法人税制上の資本金基準を「1億円以下」から「3億円以下」に引き上げ	**引き上げには至らず**
	カーボンニュートラル(CN)に向けた 投資に対する税制措置	設備導入や投資に対する税額控除、特別償却等の措置の更なる充実、補助金・助成金の拡大	**控除・充実・拡大には至らず**

環境性能割：トレーラ適用除外要望

<理由>

トラクタ(牽引車)に加え、自走機能を持たないトレーラ(被牽引車)が環境性能割を負担し過大(二重)なため



※自走機能を搭載していないトレーラは、トラクタとの連結で運行可
　トラクタとトレーラは連結組合せが登録された車両のみ公道を運行可

税金の適用状況 及び トラクタ+トレーラ／トラックとの税金負担額の違い

		トラクタ+トレーラ		トラック
		トラクタ	トレーラ	
自動車税		○	○	○
重量税		○	○※	○
環境性能割	自家用3%	○	○	○
	営業用2%	○	○	○

※フルトレーラ(前輪があり自立可能)のみ適用
セミトレーラ(前輪なし自立不可)は適用外

単位:円	トラクタ+トレーラ	トラック	トラックとの差額
自動車税	62,200	85,900	−23,700
重量税	54,000	52,000	+2,000
環境性能割	400,000	200,000	+200,000
合計	516,200	337,900	+178,300

前提条件：営業用、積載量20トン、トレーラ/トラクタ/トラック共に取得価格10百万円

カーボンニュートラル対応 第15回

NEWS 特集

カーボンニュートラル（以下CN）については、2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、CNを目指すことを宣言したことを受け、当会では、CN専門委員会を立ち上げ、2021年8月27日より活動を開始した。会員の皆様からいただいたアンケートの結果に基づき、CNを正しく理解していただくための勉強会の開催、パンフレットの送付（その1～4）、そして車体NEWSでは2021秋号から取組みを紹介している。

第15回目は、2024年度の車体工業会の取組み、CN専用ホームページ、2023年度CO_2排出量調査、について紹介する。

2024年度車体工業会の取組み

1. 委員会活動による会員支援

① 環境委員会WG活動による会員支援

3つのWGを立ち上げ、会員のCN活動のサポートとなる情報を発信していきます。

項　目	実　施　事　項	進捗状況
事例WG	わかりやすいCN対応事例の展開	「儲かる・すぐできる・誰でもできる」事例をHPに公開中 https://www.jabia.or.jp/cn/energysaving/#energysaving01
分析WG	CO_2排出量の算出方法のサポート、集計結果の分析 （削減項目、削減量把握　等）	**ご協力ただいた削減項目、削減量の回答集計結果、2023年度の削減実績は2.3万トンとなった。結果詳細は近日HPに公開予定**
支援WG	部会・支部と連携した現地現物による工場訪問支援、意見交換	岩崎工業㈱：11月 本所自動車工業㈱：11月 オールセーフ㈱：11月 札幌ボデー工業㈱：1月

② 中央業務委員会

2023年度のアンケート結果をHPで公開中　https://www.jabia.or.jp/cn/about/#about02

③ 広報委員会

わかりやすい・検索しやすいCNホームページを目指し、
トップページにCNページに簡単に遷移するバナーを追加　https://www.jabia.or.jp/

2. 部会・支部活動による会員支援

① 部会

各部会単位（特装・特種・トラック・バン）で、会員支援策を検討・実行

- 特装部会 ： 部会内CN WGを立ち上げ、会員支援策を検討
  ⇒ **記入要領をわかりやすくまとめた「手引書」を添付し、会員配信／個別説明会開催**
- 特種部会・トラック部会 ： 各社の取組みを部会で共有
- バン部会 ： 業務委員会が中心となり、**委員会社のCN担当者を招いた勉強会を開催**

② 支部

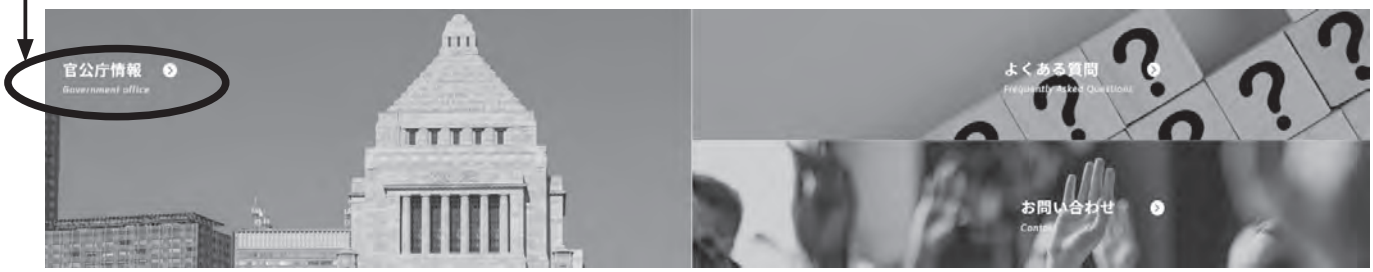
工場見学会を兼ねたCN勉強会の開催を各支部にて計画実行

CN専用ホームページ

迅速に、そして分かり易くCNに向けた会員の皆様の活動状況や官公庁、他団体の有益な情報を共有し、諸活動にお役立ていただくために、「CN専用ホームページ」を開設し、2022年12月22日にリリース。

https://www.jabia.or.jp/cn/

<新着情報>
官公庁情報
生産領域の省エネ情報
・カーボンニュートラルに向けたチェックシート
（中小機構HPの掲載）
https://www.jabia.or.jp/cn/public/



CN専用ホームページ トップページ

車工会会員の皆様へ

会員にとって有益な情報を継続して発信して参りますので、掲載要望やお気づきの点がございましたら、お気軽に事務局までお問い合わせ下さい。お問い合わせはこちら。**https://www.jabia.or.jp/cn/contact/**

本部だより NEWS FLASH

■2025年自動車5団体新春賀詞交歓会を開催

自工会 片山会長

2025年1月7日、自動車5団体（自工会、部工会、車工会、自機工、自販連）による新春賀詞交歓会を開催（東京・The Okura Tokyo）した。来賓として武藤容治経済産業大臣、中野洋昌国土交通大臣をはじめ、多くの皆様が参列され、出席者は関係者をあわせ、およそ1,200名となった。

主催5団体を代表して自工会の片山正則会長（いすゞ自動車㈱会長）は、「会員企業による下請け法違反や型式指定制度の不正など、あってはならないことが起きた。業界全体で再発防止に全力で取り組む、そして1日も早くすべての関係ステークホルダーの皆さまのご信頼を回復するとともに努めてまいりたい」、「混沌とした国際情勢、AIの進化に象徴される技術の革新により生活やビジネスの変革、そして国内では少子高齢化、労働力不足、自然災害といった社会課題がより一層深刻さを増し、さらに働き方や価値観など、生活ニーズの多様化も加速している。そのような中、未来や暮らしを守っていくためには、どのような状況においても柔軟に、しなやかに、様々な課題に対応していく必要があり、そのためには、国としての経済力、産業全体の競争力をかつてない程の努力を持って、更に高めていかなければならない」、「自動車産業界では、カーボンニュートラル、CASEやMaaSへの対応など、事業環境はダイナミックに変化し技術革新の大波に直面している。そして、新たに多くのプレーヤーが自動車市場に参入し、企業単位での生存競争が熾烈化し厳しい状況ではあるが、日本の自動車産業は、社会への貢献を最優先とし、新たな産業基盤の構築に向けて全力で取り組んでいく。それは、他産業を含めた産業界全体の皆さまのご協力があってこそ成し遂げられるものであり、そうした思いが、経団連モビリティ委員会の発足へと繋がった。そこで定めた優先して取り組む「7つの課題」を他産業の皆さまとともに具体的に取り組んでまいります。今年は『ジャパンモビリティショー2025』を開催する。多くの皆さまに来場いただきモビリティの未来を感じワクワクしていただけるイベントを目指してまいります。」と所信を表明した。

部工会の茅本隆司会長の音頭で乾杯が行われ、新年のスタートが切られた。

中央が車体工業会 増井会長

■安全衛生活動WG「工場見学会及び安全体感道場体験会」を実施

中央業務委員会安全衛生活動WG（リーダー・磯田純一・日産車体㈱安全環境部長）では、12月13日に日産車体㈱湘南工場（神奈川県平塚市）の見学会及び安全体感道場（同教育センター内）の体験会を実施した。

溶接工程では、無数のロボットが整然と並ぶ無人化ラインと作業員の手作業によるガス溶接や研磨ブースが並走するラインを同時に見ながら、特に作業者の保護具やブー

「静電気爆発体感」コーナー
気化ガソリンが入った容器内に静電気を起こすと爆発する実演
（〇印:爆発により勢いよく飛ぶ容器のフタ）

ス環境などの安全衛生面を確認した。組立工程では、入口で靴の裏のゴミや埃を吸着させるマットや、正しく作業着や備品等を装着した等身大のマネキンが設置され作業者が毎日見てチェックするルールになっていた。またラインサイドには軍手の交換時期が一目で分かるようにしたエリアが設けられており、安全の基本である5S※が随所に徹底された現場造りを感じた。

安全体感研修では、切創や重量物持上げの姿勢による負荷の違いの体感や、ミニチュアによるクレーン事故体感、VRによる工場内の事故や交通事故などを疑似体感でき、あらためて安全の大切さを実感すると共に、現場作業時のルールの周知や指導の重要性を感じた。

なおこのWGでは委員の工場見学を毎年実施しており今回で一巡したため、次年度以降は今回のように安全体感道場を主に見学していくことも視野に入れて、より会員の安全衛生に役立つ活動にしていきたいと考えている。

※5S: 整理、整頓、清潔、清掃、躾（職場を安全で適切な状態にする取組み）

■「現地現物による技能系社員研修2024」を開催

会員自社の現場力アップ支援活動として、2019年度より毎年小型部会会員を講師に、生産現場で人材育成を担う監督者やリーダー層を対象にして、現場での技能教育のやり方、道具立て、現場改善への取組みを学び、自社の技能教育や現場改善の参考やヒントにしてもらうことを狙いにした研修を実施している。今年も、12月5～6日にトヨタ車体㈱技能研修センター(本社・富士松工場)で8社10名が、1月27～28日に日産車体㈱教育センター(本社・湘南工場)で5社11名が参加して、安全体感訓練、工場見学、改善事例の共有、技能研修（溶接、塗装、組立、他）を実施した。

トヨタ車体㈱では、TABMEC㈱安全体感道場で大型施設を使った高所からのぶら下がり、回転体巻き込まれ、玉掛作業時手指挟まれ、感電など、普段では実践しにくい危険を疑似体感することで安全の大切さを再認識した。工場見学後のからくり体験では、基本的な考え方と低コスト・省エネルギーで安全な設備づくりに繋がるからくり改善について理解し、模型による構造紹介や従業員が生み出した実施事例の説明を受けた。TPS体感(トヨタプロダクションシステム)では、トヨタ生産方式の考え方やムリ・ムダ・ムラを見つけて改善するやり方をグループ演習で学んだ。技能研修では、講師解説に加えて動画による説明があり、正しく理解し訓練することができた。ボデー職種ではアーク溶接訓練を、塗装職種では吹付け訓練を、組立職種ではボルト締付訓練を実施した。

グループ演習によるTPS体感

塗装職種での吹付け訓練

日産車体㈱では、工場見学を通じて改善事例や作業者の出勤状況が一目でわかる大型ディスプレイ、汚れの程度に対応した3種類の軍手を掲示し、交換時期を「見える化」したエリアなどの紹介を受け、現場改善や人員・品質管理の理解を深めた。安全体感道場では、切創や重量物持上げなどの実体感に加え、ミニチュア体感やVR体感と多くのメニューを実践した。技能研修のボデー職種では、デジタル

工場内で軍手の交換時期が「見える化」されたエリア

トーチを用いたバーチャル訓練やCO_2溶接及びスポット溶接を、塗装職種では大型ディスプレイ上の動くマーカーに合わせてスムースに動かす訓練や磨きの訓練を、組立職種では動くコンベア上にある治具上にボルト/ナット/プレートを組付けする動的訓練を行った。そして新車試作職種では樹脂板による簡易スポット打点ゲージ作り等を実演した。

参加者は研修の質問や日常の困り事を積極的に講師陣に相談しており、また、机上での説明を受ける座学とは異なって、実際に体験・体感することで、それぞれの研修内容の理解を深めていた。学んだノウハウや講師からのアドバイス、標準作業の大切さ、改善や指導方法やツール、「見える化」などのアイデアを自社へ持ち帰り、実践してみたいという声が多く聞かれ、大変有意義な研修となった。

組立職種での動的組付け訓練

■中小会員ネットワーク強化ワーキング、営業マン勉強会報告会開催

中小会員ネットワーク強化ワーキング（リーダー・矢野彰一・㈱矢野特殊自動車社長）では、2020年に作成・発行した「自動車車体業界の将来ビジョン」の達成にむけ、お客様の困り事への対応力を高めるために営業マンの育成に取り組むこととし、2021年から「営業マン勉強会」を継続開催している。

今年度は、営業・開発・生産が一体となった社内チーム活動実現のための体制や運営の仕方等についてチーム活動で方策を決定する」とし、8月7日のキックオフを皮切りに、12社12名が3つのチームにわかれ、チーム活動を開始、1月15日に結果報告会を車体工業会会議室で実施した。各チームからチーム活動結果を発表し、アドバイザーの中京車体工業㈱森社長、及び当日参加の中小会員ネットワーク強化WG委員からコメントをいただいた。

アドバイザーからのコメントは以下。

- 問題があって、変えなきゃいけないと思うがそこで止まっていることが多いのではないか、今回の論議がそういう部分を実行に移すきっかけとして欲しい。実行にあたっては、捨てる勇気、取捨選択（トリアージの考え方）も必要。会社の皆が同じ方向で取り組むことが重要
- チャットGPTが進化していて、業務効率化につながる可能性大なので、活用してほしい

参加したメンバーからは、「他社の営業マンと同じテーマを論議し、「勉強になった」「新鮮だった」「刺激を受けた」等のコメントが多く、有意義な活動となった。活動結果を各社に持ち帰り社内で実践、その結果を共有する場を2025年4月に予定している。

部会だより NEWS FLASH

特装部会

■特装部会「工場見学会」を実施

特装部会（部会長・小田浩一郎・新明和工業㈱常務執行役員）では、1月23日に5社11名が参加し、静岡県磐田市にあるスズキ㈱磐田工場にて工場見学会と、浜松市にあるスズキ歴史館の見学を実施した。

磐田工場では、軽自動車のキャリイとエブリイを生産しており、ラインでは各種工夫された装置、治具で難しい作業を無駄な動きなく行い、直行率99.6%で製造していたのが印象的だった。

また、特装のラインでは、丁度、ダンプ車の架装が行われており参加メンバーからはいろいろな質問が上がっていた。その中から1つを紹介させていただくと、スズキ製の荷台を使用したダンプが通称“金太郎ダンプ”と呼ばれているそうなのだが、その名前の由来について尋ねたところ、スズキの方もなぜその名称になったのか？ 分からないとのことで、童話の金太郎のような力持ち（荷台をダンプアップするイメージ）というところなのか･･･と推測する。

見学後、会議室に戻りCNに対する活動について具体的な活動内容までお話を伺うことができ、日々地道な改善活動に取り組まれている姿勢に共感と活動に対するご苦労を理解することができた。

スズキ歴史館では、織機を作る会社としてスタートし「常に使う人の役に立つ製品を創りたい」という意思に支えられた独創的な発想から、これまで受け継がれてきた歴史、1955年10月に日本で最初の量産軽四輪乗用車（スズライト：写真）や往年の自動車やバイクの数々にふれることができ若き日のことを思い出し懐かしい思いが込み上げてきた。

見学終了後、スズキの取組説明をいただいた中でスズキは乗用車、貨物車を主とするメーカーであるが、今回、車工会の特装分野の方々と繋がりが持てたことが貴重な機会であったとのお言葉をいただいた。

最後に今回の見学会実施にあたり調整をいただいたスズキ㈱渉外部渉外課の皆様、磐田工場の皆様、並びに車両部品調達部の皆様の対応を持ちまして大変有意義な見学会になりましたこと厚く御礼申し上げます。

■ダンプ車技術分科会「工場見学会」を実施

ダンプ車技術分科会（主査・新井佳和・極東開発工業㈱営業技術部部長）は、1月21日に5社16名が参加し、ものづくりに関する研究の一環として日野自動車㈱古河工場（茨城県古河市）を訪問した。この工場は2012年にKD部品梱包工場として操業を開始し、2017年からは大型及び中型シャシの本格的な生産を行っている。今回見学した第4工場（組立工程）は、大型と中型シャシの混合組立ラインであり、工場内の各工程でモジュール化された部品を集約して組立作業を実施している。モジュールの組み合わせを変更することで、約1,900種類の車型に対応している。

工場内では、メインラインに対する各モジュールや部品の供給、作業担当者の動きに至るまで、無駄のない効率的な生産が行われていた。また、自然光を取り入れて職場を明るくし、成層空調を導入するなど、働く人に配慮した作業環境が整備されており、効率的かつ安全な生産を考える上で多くの学びがあった。質疑応答でも、参加者からの多様な質問に丁寧に回答していただき、大変有意義な工場見学となった。

■ミキサ車技術分科会「工場見学会」を実施

ミキサ車技術分科会（主査・上條崇史・カヤバ㈱熊谷工場技術部部長）は、12月5日に3社5名が参加し、ものづくりに関する研究の一環として、兼松エンジニアリング㈱テクノベース（高知県高知市）を訪問した。テクノベースは2021年に完成した新しい工場で、これまで高知県内に分散していた拠点を一つに集約することで生産効率を向上させている。またテクノベースでは、学生のインターンシップや小・中・高生の工場見学を積極的に受け入れており、製造業の裾野を広げる取組みが行われていると感じた。展示スペースでは、兼松エンジニアリング㈱の50年の歴史を紹介するパネルが展示されており、特装車だけでなく定置式装置など多様な製品が並んでいた。その豊富な種類に圧倒されるとともに、製造メーカーとしてのチャレンジ精神や熱意に深く感銘を受けた。工程見学では、組立工程、塗装工程、検査工程を見学し、それぞれの工程について詳しい説明を受けた。特に塗装工程では、塗装品質の向上を目指し、設計段階から塗装性を考慮した設計に取り組んでいるという説明は、大変参考になった。 質疑応答でも、参加者からの多様な質問に丁寧に回答していただき、非常に有意義な工場見学となった。

■ローリ技術分科会「工場見学会」を実施

ローリ技術分科会（主査・天川英樹・昭和飛行機工業㈱陸上輸送機器事業部主査）は、12月6日に6社6名が参加し、ものづくり研究の一環として㈱矢野特殊自動車本社工場（福岡県糟屋郡）を訪問した。

この工場は、敷地面積が70,933㎡を誇り、博多駅から北へ約15㎞の距離に位置し、最寄り駅のししぶからは住宅地を抜けた徒歩約5分の場所にある。タンクローリ・特装車工場とバン車工場の2つの主要な組立工場に加え、プレス、溶接、塗装、サービスなどのその他の工場も併設されており、今回はほぼ全てのエリアを見学することができた。特に驚いたのは、工場見学中に写真撮影が許可されていた点で（一部の開発エリアを除く）、技術は各社が秘匿するものではなく、共有し合いながら互いに成長していくものであるとの説明があった。その寛容な姿勢は自社の技術に対する自信の表れであると感じた。

製造に関しては、装置や部品類を極力外注せずに自社で製作している。顧客の細かな要望に応じた商品提供が必要とはいえ、コストが高くなる傾向があり苦慮しているとの説明があったが、これは簡単に実現できることではなく、製造業としての地力の強さを感じた。

質疑応答でも、参加者からの多様な質問に丁寧に回答していただき、大変有意義な工場見学となった。

■粉粒体運搬車分科会「工場見学会」を実施

粉粒体運搬車分科会（主査・黒川知範・極東開発工業㈱名古屋工場設計課担当課長）は、12月13日に5社6名が参加し、新潟県新潟市に位置する北陸重機工業㈱の工場見学会を実施した。

北陸重機工業㈱では、機関車や保守用車の製造現場とメンテナンス現場を見学した。製造現場ではセル生産方式が採用されており、少人数のチームによる製作が行われていた。製缶工程では、特装車ではあまり見られない厚肉の鉄板を多層溶接してメインフレームやバンパを製作していた。組立工程では、エンジンや台車などの基幹ユニット組付けが行われ、操作盤のように多様な客先仕様があるものについてはハーネスの内製化も進められていた。また、油圧や空気圧の配管は系統ごとに色分けされていて、メンテナンス時の作業性が考慮されていた。両工程ともに5Sが徹底されており、一台一台丁寧に製造されている印象を受けた。メンテナンス現場では、取り外し可能な部品はすべて外して清掃・点検を行い、再塗装後に復元している。重要部品（エンジン、トランスミッション、空制品）は製造メーカーに送られ、分解整備が実施されている。設計・製造段階でのメンテナンス性への配慮が十分されていて、学ぶべき点が多くあった。

また、新製品の開発にも積極的に取り組んでおり、最近ではハイブリッド車やリチウムイオンバッテリー機関車なども製品化され、海外向けの実績は業界トップクラスである。

工場見学中、説明参加全員からの様々な質問に親切かつ丁寧に回答していただき、大変有意義な工場見学となった。

特種部会

■特種部会 第3回工場見学会

特種部会（部会長・森孝義・中京車体工業㈱社長）では、2月6日、7日に各社の若手を対象とし、14社29名が参加して岐阜車体工業㈱及び岩戸工業㈱（岐阜県各務原市）を訪問し、工場見学を行った。

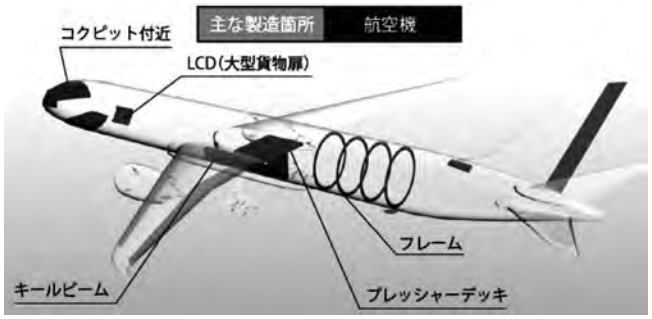
岐阜車体工業㈱では、トヨタハイエース、コースターの工場見学及び会社概要をご説明をいただいた。

1940年にトヨタ車軍用トラックボデーの製造からスタート。1999年にトヨタ車体㈱からハイエースを移管、2017年にはコースターを移管し、現在に至る。全社スローガンに「挑む」、工場スローガンに「伝承と深化、ダントツ5S」を掲げ、人財育成、領域拡大、規範遵守に取り組まれている。工場見学では、各工程における「改善事例」として、からくり等を活用した、人にやさしい作業台車や工程改善の内容をご紹介いただき、動力を必要としなくても大きな改善が可能となることを学んだ。参加者からは、現場とのコミュニケーションを活発にして、困り事を吸い上げ、改善に繋げていく仕方を持ち帰って実践したいとの声が多く、大変有意義な見学となった。

ハイエース（スーパーロング）　写真提供：岐阜車体工業㈱

岩戸工業㈱は、1957年創業、主な事業は、航空部品の組立、バス車体部品製作、バス・トラック車両架装・改装、建設機械・工作機械部品製作・塗装。いずれも一品一様のものづくりを得意とし、手作業が多いのが特徴。航空機械部品組み立ては、旅客機（ボーイング787／767等）、ヘリコプター、軍用機等の部品を厳しいルールに従って、一分の隙も無くすべて手造りで造られている。多くの部品がちょっとした家を上回るサイズで貨物用の巨大な扉に打ち込むリベットは12,000本にのぼり、その数の多さに圧倒された。バス架装では、輸入バスの2次架装を見学。建設、工作機械部品製作では、光ファイバー加工機、レーザー加工機、プレス機等多くの設備をフル活用した質も高いものづくりの現場を見学。人による作業は、チェックシートの活用、作業手順の明確化、ダブルチェック等で行っているが、顧客と協力

し画像認識技術採用のトライアルを近々実施する予定とお聞きした。一品一様のものづくりは、参加者の多くが同様であることから、大いに参考となった。



航空機製造部位　写真提供：岩戸工業㈱

■「2024年度第18回自動車技術総合機構との技術検討会」を開催

特種部会（部会長・森孝義・中京車体工業㈱・社長）では、独立行政法人自動車技術総合機構から5名と特種部会15社32名が参加し、1月22日に技術検討会をハイブリッド方式で実施した。

この技術検討会は、法規についての解釈や車検時の課題等について、相互理解を深めるため、2005年度に自動車検査独立行政法人（2016年度より独立行政法人自動車技術総合機構に組織変更）との間で開始し、今回で18回目の開催となる。

事前に部会員から寄せられた以下の6件の質問項目について当日論議し、結果を部会員にメール配信し共有化した。

<質問項目>

① 新規検査等提出書面審査の電子化について
　日産モータースポーツ&カスタマイズ㈱

② 改造自動車に該当する改造も事前書面審査で実施した際の運用について
　日産モータースポーツ&カスタマイズ㈱

③ 事前審査管理番号の取扱い
　中京車体工業㈱

④ 事前審査で提出、確認済の書面の当日審査での再提出について
　㈱トヨタカスタマイジング&ディベロップメント

⑤ 救急車の構造要件の解釈について
　㈱トヨタカスタマイジング&ディベロップメント

⑥ 構造変更検査における事前審査要否判定について
　㈱野口自動車

<その他>

審査事務規定第63次改正の内容についての解説
（機構様より）

<結果>

①の電子化は、3月初に電子システムの説明会を機構様に開催いただくこととなった。

⑤の救急車の構造要件の解釈は、現在の構造要件では、当会要望を取り入れていただくことは困難との結論となり、別途国交省と構造要件変更を相談することとした。その他の項目は当会要望通りのご回答を得た。

審査業務がスムーズに実施されることは、自動車技術総合機構、車体工業会会員共に重要なことであり、今後も技術検討会を継続していく。

資材部会

■工場見学会を実施

資材部会（部会長・小澤賢記・ゴールドキング㈱社長）の第一分科会では、12月16日に9社13名が参加し、スリーエム ジャパン㈱ カスタマーテクニカルセンター（神奈川県相模原市）を見学した。

説明者：釘宮理友氏

3M社の概要、歴史、発展の経緯について：

1902年、アメリカミネソタ州で設立、ミネソタ・マイニング・アンド・マニュファクチュアリング社。頭文字の「M」をとって「3M」に社名変更。

製品の紹介について：

最初に作ったのは研磨クロス、その後ウェットドライサンドペーパー、マスキングテープ、セロハンテープと次々に製品を開発販売。その後電機電子分野、医療分野、安全セキュリティ技術分野、接着剤、文房具、掃除用具等製品を発売。JAXAはやぶさ着陸用反射ボール、反射板（靴や標識）の紹介、生活に密着した製品（粘着テープ、マット、吸音材、たわし等）、自動車関連製品（EVバッテリー内装品、吸音材、遮音材、外装フィルム）

15%カルチャーについて：

勤務時間の15%を好きな研究開発などに使うことができる。内容は本業と異なっても良く、あくまで社員の自主性、主体性を尊重、上司への報告義務もない。ビジネスにつなげることを前提に、必要に応じて会社の設備を活用でき、厳しい審査があるが、通れば研究資金も提供される。この取組みで様々な製品が生み出されてきた。

環境への取組み：

2022年	10%水使用量削減
2023年	水使用量の多い拠点に浄水設備を設置
2024年	よりよい水質に戻す
2025年	20%水使用量削減、プラスチック依存度削減
2030年	25%水使用量削減、50%CO_2削減
2040年	80%CO_2削減
2050年	カーボンニュートラル

充実した設備と工夫されたプレゼンにより、同社の取組みや製品についてわかりやすく理解でき、参加者から大変有意義な見学であった旨のお声をいただいた充実した見学会となった。

支部だより NEWS FLASH

九州支部

■大型車販売会社4社との業務懇談会を開催

九州支部（支部長・矢野彰一・㈱矢野特殊自動車社長）では、1月21日福岡市内において「大型車販売会社4社との業務懇談会」を開催した。

販社4社から7名、支部から8社16名が参加し、「最近の市場動向と課題等の意見交換について」を議題で開催した。支部長からは、当会活動のコンプライアンス遵守の確認後、各社から製品や業務内容などを紹介した。販社の方々からは、製造や供給は昨年よりは改善したと思うので、車工会と協力してより良い製品をお客様にお届けしたいとの話があった。本会で大型販社と交流することができ、大変有意義な業務懇談会となった。

官公庁だより NEWS FLASH

道路運送車両の保安基準等の一部を改正する省令及び道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部を改正する告示について

国土交通省

・乗用車と同様、二輪自動車等においても電子制御による先進安全装置の装備が進んでおり、不正なアクセスを受けるリスクが高まってきている。そのため、二輪自動車等を対象として、2029年7月以降、段階的に新車にサイバーセキュリティに関する基準を適用する。また、EVトラック・バスの普及が進みつつある中、これらの車両事故が発生した場合、ディーゼル車とは異なる消防・救助活動が必要とされている。そのため、EVトラック・バスを対象として、外観から電気自動車であることを識別できるよう、2026年9月以降、段階的に新車にEV専用のラベルを表示する。

・その他所要の改正。

「装置型式指定実施要領について（依命通達）」等の一部改正について（依命通達）

国土交通省

・「サイバーセキュリティに係る協定規則（第155号）」等の　れたため、これらを踏まえ、以下に掲げる事項等について、改正を行う。

・「装置型式指定実施要領について（依命通達）」

・「自動車の特定改造等の許可実施要領について（依命通達）」

・「自動車の特定改造等の許可に関する省令及び自動車の特定改造等の許可に関する技術上の基準に係る細目等を定める告示の規定に基づく国土交通大臣が定めるもの等について（依命通達）」

・その他所要の改正。

審査事務規程の一部改正について（第61次改正）

自動車技術総合機構

・自動車の後退時に発生する事故を防止するために、乗車定員が10人以上かつ車両総重量が3.5トンを超える乗用自動車や車両総重量が3.5トンを超える貨物自動車について、自動車が後退することを歩行者等に通報する装置としてUNR165「車両後退通報装置に係る協定規則」に適合する車両後退通報装置（バックアラーム）の装備が義務付けられることに伴い、審査方法等を規定。

・車両後退通報装置の装備義務車の架装内容を把握するために、「車両後退通報装置の取付状態確認書」を新設。

・その他所要の改正。

審査事務規程（交通研部分）等の一部改正について（第62次改正）

自動車技術総合機構

「審査事務規程」別添1（試験規程（TRIAS））の一部改正を行う。

・協定規則の改訂に伴う一部改正（2項目）

・付表等について修正及び項目の追加等（20項目）

・その他所要の改正。

サイバーセキュリティ対策に関する経済産業省の施策及び警察庁からの協力要請について

経済産業省

デジタル化の進展により、サイバー空間が広がる一方で、ランサムウェア攻撃を含めたサイバー攻撃の数は年々増加し、更に高度化・巧妙化が進んでいる。このような中、政府全体としては、「能動的サイバー防御」の実現等、日本のサイバーセキュリティ対応能力向上に向けた法制度等に関する検討を加速させてきている。経済産業省でも、産業界のサイバーセキュリティ対策を推進するため、各種施策を推進しているところ、これら取組みの活用が進むよう、会員企業等への周知のご協力をお願いする。

<詳しくは以下を参照>

https://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/index.html

https://www.npa.go.jp/bureau/cyber/soudan.html

2025年度の大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者等の就職・採用活動に係る公共職業安定所における取扱い等について

厚生労働省

2025年度の大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者の就職、採用活動については、2023年12月8日の就職、採用活動日程に関する関係省庁連絡会議におい

て、2024年度と同様の日程(広報活動は卒業・修了年度の直前の年度の3月1日以降に、採用選考活動は卒業・修了年度の6月1日以降に、正式内定は卒業・修了年度の10月1日以降に開始)を原則としつつ、一定の要件を満たす人材について新しい採用日程を設けること等としている。上記日程の遵守等については、内閣官房、文部科学省、厚生労働省及び経済産業省からは2024年4月16日付け「2025(令和7)年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動に関する要請等について」、大学等(大学等関係団体で構成される就職問題懇談会)からは同日付け「「2025年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について(企業等への要請)」について」により、経済団体等に対して要請している。

<詳細は以下を参照>

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000184189_00002.html

「化学物質管理強調月間」(2月)のお知らせ

厚生労働省

職場において製造または取り扱われる化学物質は、数万程度存在すると言われている。そのうち、危険性・有害性を有する化学物質は約2,900程度あることがわかっている。厚生労働省では、化学物質による労働災害を防止するため、労働安全衛生法に基づく新たな化学物質規制を導入し、本年4月から施行。

「化学物質管理強調月間」は、職場における危険・有害な化学物質管理の重要性に関する意識の高揚を広く一般に図るとともに、化学物質管理活動の定着を図ることを目的としたもので、毎年2月に実施することとしており、今年度が初めてとなる。化学物質管理強調月間のスローガンを定め、実施要綱に基づき、化学物質管理強調月間を実施する。

<詳細は以下を参照>

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39828.html

より活用しやすく！　令和7年中小企業省力化投資補助金のポイント」

経済産業省　中小企業庁

中小企業省力化投資補助金(省力化投資補助金)は、中小企業等の人手不足解消を目的とした「省力化製品」の導入を支援する補助金。2025年から、この補助金が大きく変わるので、紹介する。

製品カタログに登録された省力化製品を選ぶ「カタログ注文型」は、販売店の登録要件が緩和され、またオーダーメイド(セミオーダーメイド)で省力化設備を導入できる新たに「一般型」が新設される。

さらに活用しやすくなった2025年中小企業省力化投資補助金(省力化投資補助金)の主な変更点の詳細は以下を参照。　https://mirasapo-plus.go.jp/hint/27807/

<カタログ注文型と一般型の比較>

項目	カタログ注文型	一般型(新規導入)
補助対象	カタログに登録されている製品が補助対象。製品の本体価格や導入経費などが補助対象経費。登録カテゴリー・登録製品は順次追加更新しているので、最新のカタログで確認願います	現場にあわせて、独自の設備やシステムを選定・導入可能。オーダーメイドの設備や複数の汎用設備を組み合わせた導入が可能。機械装置・システム構築費(必須)、技術導入費、専門家経費、運搬費、クラウドサービス利用費、外注費、知的財産権等関連経費が補助対象経費となる
補助上限額	補助上限額は従業員数に応じて設定される。たとえば、従業員数が5人以下の場合、上限200万円(大幅賃上げ要件を満たす場合は300万円)	補助上限額は従業員数に応じて設定される。カタログ型より高く、従業員数が5人以下の場合、上限750万円(大幅賃上げ要件を満たす場合は1,000万円)
補助率	一律で1/2以下	中小企業で1/2、小規模・再生事業者で2/3、補助金額が1,500万円を超える部分は一律で1/3
公募方法	随時公募を受け付け。いつでも申請が可能	公募回制。公募回の締切にあわせて申請
申請書類	省力化効果が認定済みの製品を導入するため、申請書類も簡便。販売事業者と共同で申請	省力化効果などを説明した事業計画等、カタログ注文型よりも詳細な申請書類が求められる

最近の法規関係情報の詳細についてはJABIAホームページ新着情報の法規情報をご覧ください。
https://www.jabia.or.jp/news/regulations/

NEWS FLASH 月度活動状況

12月		
3日	第3回広報委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画進捗状況の共有・論議 ② 車体NEWS2024年冬号校正
	トレーラ部会／製品安全委員会 (当会会議室+Web会議)	① 安全点検整備推進雑誌広告及び自動車点検整備分解記録簿改定の検討 ② 日整連訪問結果の共有(「火災注意&予防整備」チラシ反響及び次年度活動)
4日	第3回環境委員会 (当会会議室+Web会議)	① 架装物リサイクル分科会活動状況を報告 ② 工場環境分科会の活動状況を報告
5日	第3回中央業務委員会(Web会議)	① 2024年度事業計画の3Q進捗状況の共有・論議 ② 2024年度CNアンケート見直し提案・論議 ③ 各部会活動及び困り事等の共有、困り事集約に関する論議 ④ 中小会員NW強化WG・安全衛生活動WG・現地現物技能系社員研修の共有
	特装部会／ミキサ技術分科会 ものづくり研究(高知)	兼松エンジニアリング㈱テクノベース生産技術センターを見学会 ▶P.11
	自民党自動車議員連盟主催 「自動車政策懇談会」(東京)	自動車関係団体として取りまとめた「2025年度税制改正に関する要望書」を提出し、各団体から要望内容の説明及び意見交換を実施
5日～6日	現地現物による技能系社員研修(愛知)	トヨタ車体㈱技能研修センターにて実施 8社10名参加 ▶P.8
	特装部会／ 第2回ローリ技術分科会(福岡)	① 2024年度事業計画3Q進捗状況の確認と課題対応について議論 ② ハンドブックの改定について議論 ③ ㈱矢野特殊自動車工場見学会を実施(6日) ▶P.11
6日	第3回中央技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画3Q進捗状況の共有・議論 ② 法規関係(R158、R165、R73)の状況を報告・議論 ③ バン部会技術委員会からの提案の進捗について説明
9日	トレーラ部会／サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	① 都道府県トラック協会2024年度トレーラ研修実績の共有、次年度対応論議 ② トレーラ定期点検整備の手引き」2013/14/16/18年度統合版の作成作業
10日	トラック部会／部会会議 (当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況共有と論議 ② CN活動状況についての情報交換
	バス部会／ワンマン機器小委員会 (Web会議)	JABIA規格「バス乗客降車合図装置」改正案の作成 部品メーカー及びCUD機構からのフィードバックを織り込んだ改正案完成
11日	バス部会／技術委員会・ワンマン機器小委員会合同会議(Web会議)	① 2024年度テーマ活動の確認及びJABIA規格・バス車体規格集の改正検討 ② 協定規則、法改正動向の共有と対応及び他団体活動の共有、他
	商用車ショー企画委員会 (当会会議室+Web会議)	① ジャパンモビリティショー2025概要について情報共有 ② 出展方法を議論し、屋内出展に決定
12日	第2回支部連絡会 (当会会議室+Web会議)	① 支部事業活動の共有化と良いとこどり活動について論議 ② 次年度支部総会日程の確認
13日	中央業務委員会／ 安全衛生活動WG(神奈川)	① 日産車体㈱湘南工場見学 ② 同教育センター内安全道場にて安全体感訓練実施 ③ 2024年度労働災害事例6件の共有 ▶P.7
	特装部会／ 粉粒体運搬車技術分科会(新潟)	北陸重機工業㈱工場見学会を実施 ▶P.12
16日	バン部会／部会会議 (当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況共有と論議 ② CN活動状況についての情報交換
	資材部会／第一分科会研修会(神奈川)	スリーエム ジャパン㈱カスタマーテクニカルセンター見学会を実施 ▶P.13
17日	中小会員NW強化WG (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画進捗状況の共有・論議 ② 営業マン勉強会中間報告会結果と今後の予定共有

18日	特装部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画3Q進捗状況の共有・議論 ② 法規関係(R158、R165、R73)の状況を報告・議論
19日	第26回CN専門委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度実績報告 ② 2025年度活動計画の論議
23日	特装部会／サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	① メンテナンスニュースNo.59原稿内容について議論 ② 2025年度メンテナンスニュースの検討
	トレーラ部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 各種法規対応やCS/SUに関する情報共有・論議、他団体からの要望対応 ② JABIA規格「トレーラに関する用語」の改正検討 ③ 自工会及び全日本トラック協会からの要望への対応
24日	中央技術委員会／車両後退時警報装置検討WGスモールミーティング (当会会議室+Web会議)	R165解説書の内容について検討
25日	中央業務委員会／外国人育成就労制度(技能実習制度改正)対応WG(東京)	「自動車3団体による技能実習制度見直しに関する要望書」を自工会・部工会と共に経済産業省へ提出
	特装部会／業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の進捗状況の共有・議論 ② 第3回中央業務委員会報告内容の共有・議論

1月

7日	自動車5団体新春賀詞交歓会(東京)	2025年自動車5団体新春賀詞交歓会を The Okura Tokyoプレステージタワー1階「平安の間」にて開催 ▶P.7
14日	トレーラ部会／サービス委員会(当会会議室+Web会議)	① 都道府県トラック協会2024年度トレーラ研修実績の共有、次年度対応論議 ② 「トレーラ定期点検整備の手引き」2013/14/16/18年度統合版の作成完了
	バス部会／ワンマン機器小委員 (Web会議)	JABIA規格「バス乗客降車合図装置」改正案の作成 部品メーカー及びCUD機構からのフィードバックを織り込んだ改正案作成完了
15日	中小会員NW強化WG／営業マン勉強会(当会会議室)	① 最終発表会の開催、今後の計画共有 ② アドバイザー、WGメンバーからのアドバイス
	バス部会／技術委員会・ワンマン機器小委員会合同会議(Web会議)	① 2024年度テーマ活動の確認及びJABIA規格・バス車体規格集の改正検討 ② 協定規則、法改正動向の共有と対応及び他団体活動の共有、他
16日	中央技術委員会／車両後退時警報装置検討WG(当会会議室+Web会議)	① 審査事務規程の改正(第61次)内容の確認 ② R165解説書の内容について検討
17日	常任委員会(当会会議室+Web会議)	① 会員会社への公取立入り報道を受た対応と当会活動運営ルール論議 ② 25年度予算 ③ 会員資格の考え方
	第279回理事会 (当会会議室+Web会議)	① 審議事項 第1号議案　コンプライアンス(競争法順守)規程 ② 報告事項　各報告事項とも資料により説明し了解を得た 1) 本部・部会・支部別　事業計画3/4期実績まとめ 2) 3/4期　収支実績まとめ 3) JMS2025展示&費用について 4) その他報告事項 4-1. 2025年度 事業計画骨子検討のお願い 4-2. 2025/2026年度　役員改選・選任日程 4-3. 2025年海外視察について 4-4. 2025年度 車体工業会功労者表彰受賞者の推薦について(書面回付) 4-5. 2025年度 車体工業会優良従業員表彰受賞者の推薦について(書面回付) 4-6. 2025年度 車体工業会主要会議日程(書面回付) 4-7. 最近の商用車販売及び会員生産台数(書面回付) 4-8. 2025年度税制大綱、当会に関係する政府の補正予算案(書面回付) 4-9. 3月講演(技術発表会)について(書面回付)
	トレーラ部会／部会長と各委員会との報連相#3(当会会議室+Web会議)	① 部会事業計画3Q報告及び会員困りごと進捗の共有・論議 ② 「トレーラサービスマニュアル」の改訂要否論議
20日	特装部会／脱着車キャリアコンテナ技術分科会(当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画3Q進捗状況の共有・議論 ② 「多目的コンテナ普及活動検討会」パンフレット(案)の報告

NEWS FLASH 月度活動状況

21日	特装部会／ダンプ車技術分科会（茨城）	日野自動車㈱古河工場見学会を実施	▶P.10
	トレーラ部会／技術委員会 （当会会議室+Web会議）	① 各種法規対応やCS/SUに関する情報共有・論議、他団体からの要望対応 ② JABIA規格「トレーラに関する用語」の改正検討	
22日	特種部会／自動車技術総合機構との技術検討会（当会会議室+Web会議）	① 6件の質問項目に対する質疑応答 ② 第63次改正案の内容説明（機構より）	▶P.13
23日	特装部会／工場見学会（静岡）	スズキ㈱磐田工場・スズキ歴史館の見学会を実施	▶P.10
24日	トラック部会／技術委員会 （当会会議室+Web会議）	① 中央技術委員会内容情報の共有 ② 2024年度調査研究テーマについての論議	
	小型部会／技術委員会 （当会会議室+Web会議）	① 2024年度事業実績の振返り ② 2025年度事業計画の議論	
27日	中央技術委員会／点検整備推進分科会 （当会会議室+Web会議）	① 架装物の安全点検制度ガイドライン改正内容論議 ② 制度対象製品見直しの方向性論議	
	環境委員会／架装物リサイクルWG （当会会議室+Web会議）	① 2024年度事業実績の振返り ② 2025年度事業計画の議論	
27日～28日	現地現物による技能系社員研修 （神奈川）	日産車体㈱教育センターにて実施 5社11名参加	▶P.8
29日	環境委員会／工場環境分科会支援WG （北海道）	札幌ボデー工業㈱を訪問し、現地現物による工場訪問支援・意見交換	
30日	バス部会／塗装デザイン研究会 （当会会議室+Web会議）	① 2024年度塗装技術者向け勉強会参加者アンケートのまとめと振返り ② 2025年度同勉強会に向けての諸検討	
	資材部会／フィルム分科会 （当会会議室+Web会議）	① 2024年度事業実績の振返り ② 2025年度事業計画の議論	
31日	特装部会／ミキサ車技術委員会 （当会会議室+Web会議）	①2024年度事業計画3Q進捗状況の共有・議論 ②解体マニュアルの見直しを実施	
	トレーラ部会／製品安全委員会 （当会会議室+Web会議）	① 自動車点検整備分解記録簿2025改定版の作成作業 ② 次年度活動及び日整連連携に関する論議	

2月

3日	中央業務委員会／安全衛生活動WG （当会会議室+Web会議）	① 2024年度労働災害事例「この災害から学ぶべきこと」の作成 ② 次年度活動及び労働災害事例収集テーマに関する論議	
7日	特装部会／サービス委員会 （当会会議室+Web会議）	① メンテナンスニュースNo59最終原稿内容について確認 ② 2025年度メンテナンスニュースの検討	
	バン部会／業務委員会 （当会会議室+Web会議）	① 中央業務委員会内容情報の共有 ② 第3回CN勉強会を開催	
7日～8日	特種部会／第3回工場見学会（岐阜）	岐阜車体工業㈱、岩戸工業㈱を訪問。	▶P.12
11日	バス部会／ワンマン機器小委員会 （Web会議）	① JABIA規格「バス乗客降車合図装置」改正案 ② 技術発表会(3月)報告内容論議及び資料作成	
12日	特装部会／塵芥車技術分科会 （当会会議室+Web会議）	① 2024年度事業計画3Q進捗状況の共有・議論 ② 塵芥車の製作基準(JABIA-P1701)改定案の最終確認	
	バス部会／技術委員会・ワンマン機器小委員会合同会議（Web会議）	① 2024年度テーマ活動の確認及びJABIA規格・バス車体規格集の改正検討 ② 協定規則、法改正動向の共有と対応及び他団体活動の共有、他	

13日	バン部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 中央技術委員会内容情報の共有 ② 2024年度調査研究テーマについての論議
17日	特種部会／合同委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画進捗状況の共有・論議 ② 2025年度体制、事業計画論議
19日	トレーラ部会／サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	① 「トレーラサービスマニュアル」改訂及び神奈川県トラック協会研修内容検討 ② 会員困り事回答作成及び2025年度活動に関する論議
20日	中央技術委員会／車両後退通報装置検討WG(当会会議室+Web会議)	R165解説書の内容について検討
	トレーラ部会／業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 都道府県トラック協会トレーラ研修受講者アンケート結果共有 ② 会員困り事回答作成及び2025年度活動に関する論議
21日	環境委員会／架装物リサイクル分科会 (当会会議室+Web会議)	① 環境ラベル取得推進の現地訪問内容共有 ② 2025年度事業計画の議論
	中小会員NW強化WG (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画進捗状況の共有・論議 ② 2025年度体制、事業計画の論議
25日	特装部会／ローリ技術分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画進捗状況の共有・論議 ② 2025年度技術分科会活動計画について ③ 関連メーカーおよび団体との情報交換 ④ バイオエタノール導入拡大に向けたタスクフォース(TF)について
26日	環境委員会／工場環境分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業実績の振り返り ② 2025年度事業計画の議論
	トレーラ部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 各種法規対応やCS/SUに関する情報共有・論議、他団体からの要望対応 ② 会員困りごと回答作成及び2025年度活動に関する論議
27日	特装部会／業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の進捗状況の共有・議論 ② 第4回中央業務委員会への報告内容について議論
28日	第4回広報委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画進捗状況の共有・論議 ② 車体NEWS2025年春号校正
	バス部会／業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 中央業務委員会#3に向けた資料作成 ② バス部会会員各社困り事や課題の確認
	資材部会／役員会(東京)	① 2025年度事業計画・収支予算(案)の検討 ② 2024年度事業報告・収支決算見込みの承認

訃報

当会の元理事(㈱矢野特殊自動車 相談役))矢野羊祐氏が2024年12月5日に逝去されました(享年91歳)
1994年～2011年においては当会九州支部長に就任され当会事業に大きく貢献されました
謹んでご冥福をお祈り申し上げます

故 矢野羊祐氏

会員情報

■社名変更　正会員　㈱エムビーエムサービス　→　ビューテックバスサービス㈱

■代表者変更　正会員

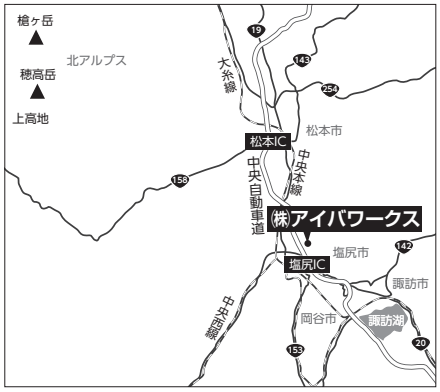
NX商事㈱	代表取締役社長	青木　進
岐阜車体工業㈱	取締役社長	足立　利光
㈱東海特装車	取締役社長	安藤　章宏

NET WORK

会員会社紹介

Vol.118

相場　壯太　代表取締役社長



DATA

■本社　〒399-0711
長野県塩尻市片丘9637番地2
塩尻インター林間工業団地
TEL　0263-53-3393
FAX　0263-53-3535
URL　https://www.aibaworks.co.jp/

■資本金　3,000万円

■従業員　46名

■事業所規模
敷地：25,400㎡
工場：12,000㎡
併設走行試験場：27,724㎡

■車体工業会加入
2020年10月(トラック部会)

iba
AIBA WORKS

㈱アイバワークス

13m超1,000トンクラスのプレス機を導入。こだわりの製品で唯一無二を目指す。

北アルプスを一望できる自然豊かな長野県塩尻市で、厳選された材料を最新の設備を使って加工し、「こだわりの物造り」・「ONLY ONEの物造り」をモットーに、顧客に感動を与える製品造りを目指している。

車体工業会　小森　啓行

特徴・沿革

1964年、会長である相場計人氏が当時勤めていたトラック修理工場から20歳で独立し、自動車鈑金修理業を資本金3万円で開業する。1969年に相場自動車鈑金㈲として法人登記、当時では珍しいフレーム修正機を導入して、修理の仕事が増えてくる。

1971年頃からラリーを始め、自ら補強パーツを作り始めたところ、ラリー仲間から好評を得て、1979年に㈱アイバワークスに社名を変更、ラリー車両のチューニングショップを開店し、ラリーパーツの製造・販売を始める。しかし、1985年に国内ラリー規定が厳しくなり、ラリー車のマーケットは衰退していく。

同時期にスキーブームが到来。四輪駆動車の人気の高まりに合わせ、グリルガードやルーフラックの製造・販売を開始する。その後、空前のRVブームが巻き起こり、事業は急成長する。1987年には、国内の多くの自動車メーカーにライン部品・純正部品として納入を開始し、1989年、業務拡張に伴い、現在の塩尻インター林間工業団地へ工場を建設し移転、事業規模を拡大していった。

しかし、1996年にテレビ番組において、歩行者保護の観点からグリルガードは危険だと指摘され、自動車メーカーの自主規制等により、市場が急速に縮小し、売上が激減した。

これを契機として、創業前はトラックの修理工場で働いていた現会長の経験を活かして、社会の役に立つ製品を作るという長年の夢の実現へ向けた商品開発へ舵を切り直した。

1998年にトラック用スライドデッキ「ノセルダ」を開発し、東京トラックショーに出展。高強度ステンレス材等の特殊な材料を使用した輝く車体と高い価格は、来場者を驚かせた。

当初は月に1台程度だったが、10年を経ると耐久性が認められ、リピート客が続出。評判が広がり、今では全国各地から多くの注文を受けている。

製品

― 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

架装事業は1998年から開始しました。後発の小規模架装メーカーとして、他社とは違う特徴的な製品造りを目指しています。

使用する部材は全てボルトオンで組み立てています。シャシフレームのねじれに逆らわない柔軟な構造となり、駆動力と乗り心地も向上します。

また、破損や変形した部品の交換も容易にできます。設計データを1台1台管理し、全ての部品を社内で作ることができるので、オーダーが入れば、1日で補修パーツを製作して発送でき、働くクルマを休ませないサービスとして好評を頂いています。

ボルトオン組立

2016年に日本国内で2台目となる、加圧1,000トン・13m超の超大型折り曲げ機を導入しました。10m超の高強度材料を1度で折り曲げ、美しく強い部材を作り出すことができます。

10m超のステンレスを一度で折り曲げる
1,000トンの大型プレス機

― どのような製品を手掛けているのでしょうか?

重機運搬車が売上の大半を占めています。国内では調達が難しい高強度のステンレスを使ったボデーにこだわっています。強度が高いので板厚を薄くでき、荷台が軽くなり積載量を増やすことができます。さらに腐食による経年劣化をほとんど受けません。

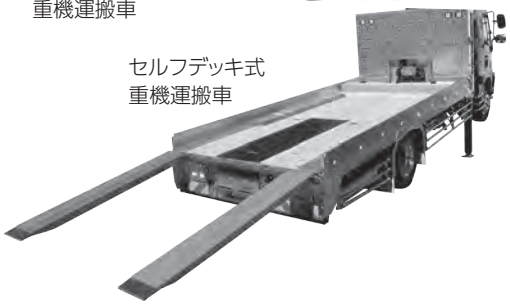
小型トラックや軽トラックに簡易的に装着できる除雪装置「スノープラウ」やプロ向けのタフなルーフラック「ノセルダ」等の自社商品の開発・製造・販売もしています。

軽トラック用除雪装置
「スノープラウ」

架装待ちの車両は建屋内で大切に保管

掃除が行き届いて明るく広い工場

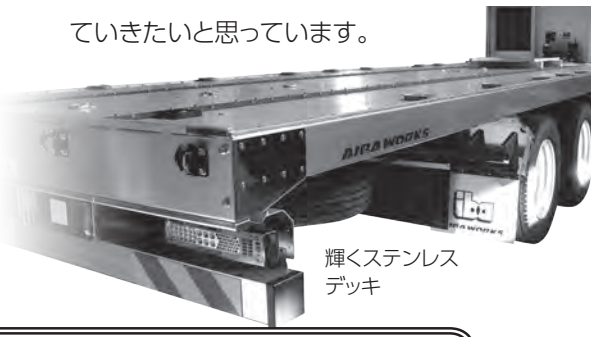
スライドデッキ式
重機運搬車


セルフデッキ式
重機運搬車

― 御社の経営方針は?

創業当初から、唯一無二の物を作ることにこだわっています。特許を取る等ではなく、常に新しい材料を探し、使ったことのないものや未知の材料、加工方法を研究し、お客様が感動できるような製品作りを続けていきたいです。弊社には営業マンはおりません。お客様に認められる製品の魅力こそが最大の武器となっています。

また、今後は車の耐久性をさらに伸ばし、リサイクルできる作り方を重視し、捨てる材料がない物造りを目指していきたいと思っています。


輝くステンレス
デッキ

人

― 御社の特徴は?

車やバイクが好きなスタッフが多く、20代から60代までバランス良い年齢構成となっています。休み時間には工場の機械を使って、車やバイクのカスタムをしたり、会社の裏山のダートコースをバイクで走ったりしてます。

週2日、ノー残業デーを設けたり、従業員が働きやすい環境を整えています。その結果、ここ数年は従業員の親族や友人の紹介からの採用が多くなっています。

― 次世代の教育について

OJT&マンツーマンで機械の使い方を文字通りイチから現場で教えています。フォークリフト免許や溶接の資格も会社持ちで取得を奨励しています。

AI検知でバス乗客の車内事故を防ぐ

㈱東海理化

1948年創立の㈱東海理化は、従業員数2万人超、売上高6,235億円(2024年3月期実績)の自動車部品メーカーである。長年に亘り培ってきたメカトロニクス及びエレクトロニクス技術を活かし、自動車用の各種スイッチをはじめとするヒューマンインターフェース関連部品などを国内外の自動車メーカーに広く供給している。

自動運転バスの実現を見据えた車室内モニタリングシステム

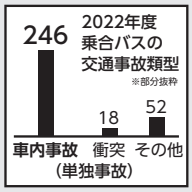
㈱東海理化では自動運転時代に対応した車内をモニタリングするシステムの開発が進められている。将来、実現するであろう完全に無人で運行するバスでは、車内で何が発生するかわからないため、監視カメラとAI(人工知能)によるリアルタイム遠隔監視システムの必要性が予測されている。

具体的には複数台のカメラの映像を、乗客の位置や姿勢状態を認識する「骨格検知」を学習したAIがリアルタイムに画像解析をし、着席していない乗客がいる場合は、着席を促すアナウンスが流れ、着席するまでバスは発進できない等の機能を持たせることが考えられている。

現在のバスの車内事故対策への応用

バス事業者と協同で開発に取り組んでいる中で、2023年秋にバス事業者側から、「現在の路線バスにも車室内事故を防止するシステムを搭載したい」との話が出てくる。

実際にバスに関する事故は、車内での転倒による事故が最多となっている。また、運転士の口頭による注意喚起は乗客とのトラブルの種になることもあり、運転士不足の中、せっかく採用できても乗客対応によるストレスで辞めてしまうケースもある。路線バスの運転士が安心安全に運転に集中できる環境作りは、大きな社会課題であるといえよう。



若手が多く起用された社長直轄の「車室内監視プロジェクト」チーム

中居 利成 主幹(新商品開発部兼任)　藤田 隆吾 プロジェクトリーダー　廣田 哲也 主任

バス運転士の悩み

- 空いてる席があれば全員座ってほしい。
- 混雑時は後ろに詰めてほしい。
- 停車するまで歩き回らないでほしい。
- 注意すると会社に苦情が入る。
- 安全運転に集中したい。

㈱東海理化は、カメラで撮影した乗客の姿勢や動作をAIが検知して、自動音声とデジタルサインで乗客に注意喚起するシステムを考案し、川崎鶴見臨港バス㈱と協同で、2024年2月頃から実証実験を開始、2026年秋の実用化に向けて研究開発が進められている。

走行中に立ち上がる乗客をAIが検知すると、自動音声とともに、車内のデジタルサインにも注意が表示されて、着席を促す

独自のデータセット

AIに人間の動作や姿勢の状態を認識させるには、膨大なデータセット(人間の画像に骨格の位置をマークしたデータ)を学習させなければならない。しかし、AI学習用に配布されているデータセットは、商用利用についてグレーな部分もあり、当初利用していた20万件以上のデータの7割が商用利用が不可もしくは不明なため、法令遵守を重視し、従来のデータは捨てて、自分たちで膨大なデータセットを作ることを決断する。

従来データと同等以上の精度へ高めていく地道な作業が始まった。外部に制作依頼したデータは100%完全な保証はないため、AIに学習させる前に1枚1枚目視でチェックしなければならなかった(現在はツールを作って一部を自動化している)。また並行して行われている実証実験の膨大な映像もチームで分担し、1人当たり50時間以上の動画を検証して、車内事故に関わる要因分析や、AIの学習データにフィードバックさせていった。

時間とコストを費やした独自のデータセットは20万件超に積み上がってきた。乗客の車内事故を防ぐAI検知機能は、実用化に向けて日々磨きがかけられている。

㈱東海理化　代表取締役社長　二之夕 裕美
【本社】〒480-0195
愛知県丹羽郡大口町豊田三丁目260番地
Tel: 0587-95-5211　https://www.tokai-rika.co.jp/

私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しています。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。
「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

聴覚障がい者に配慮した新型散光式警光灯

㈱パトライト

㈱パトライトは、1955年に高性能マイクロモータの開発に成功し、1965年に自社製モータを使った回転灯の製造を開始した。「光」と「音」を組み合わせた独自の報知機器を作り上げてきた。近年は光源は電球からLEDへ変更、電子制御技術で様々な発光パターンを実現。消費電力の低減や製品寿命の長期化に貢献している。

2020年頃、モータ+電球の回転灯から、モーターレスのLED制御への技術開発が進み、ホタルのような拍動を持たせた光り方をさせる等、様々な光の表現を作り出すことを可能とし、製品へのフィードバックを模索していた。

聴覚障害ドライバーの不安

聴覚障害者はサイレン音が聞こえにくく、車を運転中にパトカーが近づいてくると、道をあける必要があるかどうか分からず、不安になるという。そこで「全日本ろうあ連盟」は、回転灯の見た目の変化でパトカーの走行状況が判別できるように改善することを、警察庁に要望してきた。

警察庁では、この課題を解決する新しい散光式警光灯の開発を自動車関連企業とともに進めていた。㈱パトライトも協力企業の1社として開発に参画していた。

回転灯の色は法律で決められており、道路運送車両法では、パトカーの赤色灯は300メートル手前から光が見え、赤色であることと定められている。ちなみに青色は自主防犯車両、黄色は道路維持車両、緑色は運搬車両と定められている。光り方は決められていない。

「パトロール中」の文字を電光掲示板のように表示する方法も検討されたが、動く車両の上に表示されている文字を認識させるのは困難であった。

末廣 光史　車載機器営業部　部長
梅本 孝哉　開発本部 プロダクトマネージャー
坪田 文彦　東日本営業課 課長

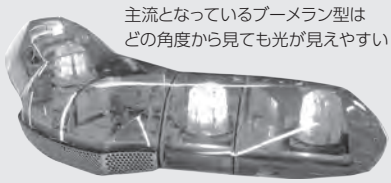
光り方のパターンで変化させる

㈱パトライトがボワーっと光って消えていくホタルのような光り方を提案したところ、「全日本ろうあ連盟」から好評を得ることができ、開発の方向性が定まってきた。

膨大な光り方のパターンを社内で4種類程度に絞り込み、検討会へ向けて、ブーメラン型の本体の中に、LED灯体モジュール、反射ミラーや光を増幅させるレンズ等を緻密にレイアウトして、実際に動くサンプルを作っていく。

検討会には、警察と連盟の関係者20～30人が集まり、様々な意見をアンケートで集め、改善が進められていった。

光の変化の周期が緩やかな方が区別がつきやすい。しかし、パトロールには緊張感、警戒感の表現が不可欠である。


主流となっているブーメラン型はどの角度から見ても光が見えやすい

モーター回転灯の速さとLED灯の切替速度を数値上でそろえても、人間には遅く見えてしまい、感覚的な調整にも多くの時間が費やされた。

㈱パトライトではホタルの光り方をさらに研究し、最初にフラッシュのようにパッと光り、ホタルのようにゆっくり消えていくパターンを作り出す。一度強く光らせることで警戒感を保つことに成功した。何10パターンの周期とフラッシュの組み合わせの中から、多くの関係者が納得できる光り方にたどり着くまでに、10回を超える検討会が繰り返された。

2023年春に埼玉県警で試験運用が実施され、新型散光式警告灯を載せたパトカーが、一定期間、実際の街中を走った。この試験運用を経て、全日本ろうあ連盟と警察の立会いの下、最終的にOKが出たのは2023年7月のことであった。様々な関係者からの意見を丁寧に反映していった4年に及ぶ開発がついに完成した。2024年度から配備が進められているので、この新しい「ホタルの光」は全国各地で輝き出すだろう。

新型散光式警光灯の動画
【警察庁YouTube】

㈱パトライト　代表取締役社長　山田 裕稔
世界中の人たちに「安心・安全・楽楽」をお届けし、社会に貢献します。
【本社】〒541-0056　大阪市中央区久太郎町4-1-3
Tel: 06-7711-8950　https://www.patlite.co.jp/

そこが知りたい 第65回

「クルマのサブスク」とは?

最近よく耳にする「サブスク」。今号では、クルマのサブスクについて報告する。

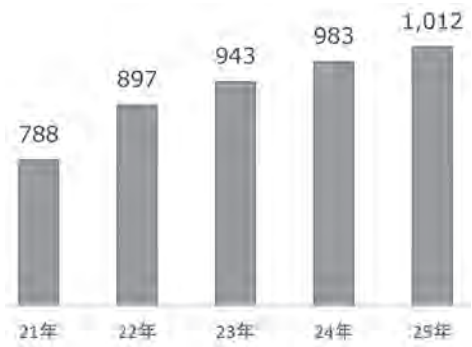
Q1 サブスクとは?

・サブスクは、「サブスクリプション」の略で、予約購読、会費などを意味する言葉で、月額や年額といった定額料金を支払うことで一定期間、商品やサービスを利用できる仕組み。購入ではなく、サービスの利用料金のような位置づけ。レンタルやリースは料金を払って特定のものを一定期間借りるビジネスモデルを指す言葉としても用いられている

・インターネットの高速通信の一般化により、スマートフォンで動画やマンガなどを手軽に見る、またモノを持つ豊かさではなく、体験重視、更に家にモノを増やしたくない、といったニーズから、今まで聴いたことのなかったアーティストの曲や馴染みのなかったジャンルの映画など、デジタルコンテンツを中心にサブスクを活用し気軽に試すといったことから普及が始まった

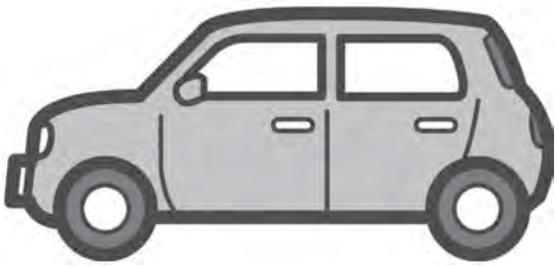
・コロナ禍以降、EC(eコマース:ネット販売)の利用が進む中、家電や家具などは店舗で一度実物を見たいとECでの購入に慎重になる人々に対し、製品を一定期間使用し、気に入ったら継続利用が可能となる家具・家電のサービスに注目が集まり、衣・食・住など日常生活に欠かせないものを提供する業界でもサブスクサービスが拡大し、更なる普及が進んだ

<サブスクサービス国内市場規模>　単位:百万円



出展:㈱矢野経済研究所

Q2 クルマのサブスクは?



・自動車メーカーやリース業者がユーザーの代わりにクルマを購入し、料金の支払いに応じて貸し出すサービス。利用者のメリットは、気軽に定額制で新車に乗れる点

・車のサブスクの利用料金には税金や、いわゆる強制保険である自賠責保険、各種手数料といった諸費用が含まれていて、クルマを購入すると発生する煩わしい手間や出費を伴わず、料金が"コミコミ"の"定額"のためライフプランがたてやすいことから、忙しい若年層を中心に注目を集めている

	メリット	デメリット
サブスク	・諸手続きを代行してもらえる ・手間を省きマイカー同様に使用可	・中途解約は違約金を伴う場合が多い ・走行距離制限がある
購入 ※カーローン	・予算内で自由に車両を選べる ・クルマのカスタマイズ自由	・ローン返済前の車両売却は不可 ・金利手数料が必要

Q3 カーリース、レンタカー、カーシェアリングとの違いは?

カーリースとの相違点	・カーリースも車のサブスクも月々定額で車を利用するサービスという点で共通し明確な区別はないが、自動車メーカーが運営しているものは「車のサブスク」、そうでないものは「カーリース」と呼ばれる傾向 ・一般的なカーリースとメーカー系のサブスクの違いでは、多くのカーリースでは車種だけでなくグレードやオプションも自由に選べるが、メーカー系の車のサブスクでは業者が厳選したオプションからしか選べないこともある ・多くのカーリースでは、自賠責保険の保険料は月々のリース料金に含むも任意保険は含まれない。サブスクは、月々の料金に任意保険の保険料も含まれることが一般的 ・但し、任意保険が含まれる車のサブスクでは、補償内容を自由に選べなかったり、これまで加入の自動車保険の等級を引き継げない場合もあるので注意が必要
レンタカーとの相違点	・大きな違いの一つが契約期間。レンタカーの契約期間は数時間または数日間と短く、必要な時に都度手続きが必要 ・カーリースやサブスクでは新車を借りられるが、レンタカーの新車はほぼない ・カーリースやサブスクではナンバーは自家用車と同じ一般ナンバーだが、レンタカーは「わ」または「れ」ナンバー
カーシェアリングとの相違点	・カーシェアリングは利用者同士で車を共有し、必要な時に15分程度の短い時間から利用可能で、「近所への買い物に時々車を使いたい」などの方には便利なサービス ・但し、複数の人でシェアするため、その都度予約必要で、状況によっては使いたいときに車を使えない場合もあり

Q4 クルマのサブスクの走行距離制限とは?

・走行距離制限とは、契約満了後の車両価格を維持するために設定された、月間や年間での走行可能距離具体的な制限は、サブスク会社によって異なり、月間で1,000kmや年間で10,000km等様々

・走行距離制限を超過した場合、契約満了時に距離に応じた超過料金を支払う必要あり

Q5 サブスクの留意点は?

・従来のカーリース、レンタカー、更には2024年夏号でも取り上げたカーシェアリングに加えて、新たなクルマの便利な保有形態として「サブスク」が普及しつつある

・但し、走行距離制限やペット同乗不可とのケースもあり、相反する点についてもよく確認の上、自らのニーズ・ライフスタイルに合った選択をしたい

働くクルマたち

第48回：コンテナ輸送車

社会に欠かすことができない車体工業会会員が製造している多種多様な「働くクルマたち」について、毎回車種を選定し、その特徴等、日頃は目にしないところを含めて紹介していく。

第48回目はコンテナ輸送車についてトラック部会から紹介する。

1. コンテナ輸送車とは

コンテナ輸送車とは、その名の通りトラックの荷台に「コンテナ」を積んで走るコンテナ運搬車両である。コンテナを脱着できる装置を備えており、運ぶコンテナの種類によって車両も使い分けされるのが特徴である。

第41回（2023年夏号）で、コンテナ専用車の種類を紹介したが、今回は運ぶコンテナの種類を紹介する。

2. コンテナ輸送車の歴史

日本初のコンテナ輸送は、1968年8月に三菱重工業㈱神戸造船所で竣工し、日本初のコンテナ専用船となった「箱根丸」により、日本～北アメリカ・カリフォルニア航路間で運航が開始された。運行開始に当たり、日本側の箱根丸所有者である日本郵船㈱と、当時業務提携を行っていた旧昭和海運㈱及び、アメリカ側の総括窓口となっていたマトソン社とのネットワークによるコンテナ船のコンテナ荷役に付随する日本国内での陸上輸送方法として、トレーラによる輸送が始まった。以来、航路開設に合わせて新規に設立された日本コンテナ輸送㈱（1967年6月15日設立）や、国際コンテナ輸送㈱（1968年5月11日設立）などの海上コンテナ輸送専門の運送会社のほか、日本通運㈱などの既存業者による新事業としての参入が相次いだ。また、その時々の社会情勢や道路事情により、輸送できるコンテナシャシの開発や、関連する車両の車体寸法・強度や安全輸送上の構造・積載重量等の運用ルールの制定、更には高速道路などでの通行許可の緩和優遇処置など、幾多の関連法律や各種利用制度の新設及び、改訂などを経て今日に至っている。

（ウィキペディア「日本のコンテナ輸送」より引用）

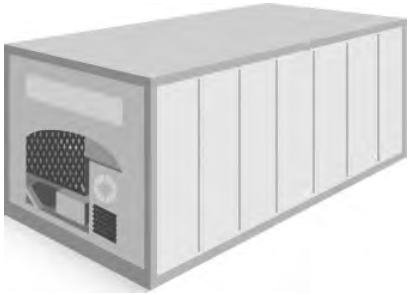
3. コンテナの種類

①ドライコンテナ（Dry Container）

ドライコンテナは、一般貨物の輸送に最も広く利用されているコンテナで、工業製品や日用品などを常温で輸送する際に適している。外装は耐久性の高いコルゲート状のスチール製、床面は合板で構成され、風雨を遮断する構造が特徴である。しかし集中荷重に弱く、ラッシングポイントが少ないため、重量物や特殊貨物を扱う際には注意が必要である。電化製品、自動車部品、リサイクル資源、コーヒー豆、葉たばこ、ワインなど多様な貨物の輸送に使用されている。

②リーファーコンテナ（Reefer Container）

リーファーコンテナは、冷凍機を内蔵し、温度管理が必要な貨物を輸送するための専用コンテナである。内部は断熱材で覆われ、温度調節は−25℃～+25℃まで可能であり、サイズは20フィートと40フィートの2種類が標準である。温度管理が重要な生鮮食品や薬品、高温による劣化が懸念される美術品や、厳密な温度制御が必要な精密機械などの貨物輸送に使用されている。

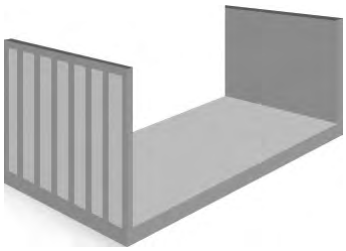


③オープントップコンテナ（Open Top Container）

オープントップコンテナは、天井部分が解放されており、防水シートで覆うことができる特殊なコンテナである。屋根部分がないため、上部からの荷役が可能で、金属製の梁はスライドさせたり取外しができる。高さや長さが規格外の荷物や、通常のドライコンテナでは収容が難しい貨物の輸送に適している。

④フラットラックコンテナ（Flat Rack Container）

フラットラックコンテナは、屋根や両側面、扉部分を持たず、大型貨物の輸送に適した特殊なコンテナである。左右や上方からの荷役が可能で、高さや幅が規格外の貨物や重量物の輸送に使用されている。



⑤タンクコンテナ（Tank Container）

タンクコンテナは、液体貨物の輸送を目的とした特殊なコンテナである。鋼製のフレーム内にタンクを格納した構造で、最大約26kLの液体を輸送可能で、食品関連ではモルト（原酒）や醤油など、また液体化学薬品など多様な液体貨物に対応している。

⑥バルクコンテナ（Bulk Container）

飼料や魚粉、モルト、レジンなど粉末や粒状の貨物を輸送するのに適したコンテナである。コンテナ天井から貨物を流し込めるようになっており、ドアの下部に取出し用のハッチ等が装備されているものが多い。

4. リサイクル資源運搬用コンテナ

前述の通り、コンテナには目的に応じて様々な種類が生産されているが、その中から、オープン・トップタイプのリサイクル資源運搬用コンテナについて詳しく紹介する。

【リサイクル資源運搬用コンテナとは】

金属スクラップや木材チップ等のリサイクル資源を輸送するコンテナである。

使用により膨張・変形したコンテナ
写真提供：愛宕自動車工業㈱

【課題と対応】

従来のリサイクル資源運搬車は厚みのある普通鋼が母材として使用されており、特に金属の運搬においては、積載物の内圧による荷箱の変形や膨張が経年と共に発生する。

その為、側面に縦横の骨を碁盤の目状に配置し強度を保つ方法がとられているが、完全に荷箱の変形や膨張を防ぐことは困難で、側面の膨張によるドライバーの視界不良や歩行者への恐怖、対向車への危険、後続車への不安が課題であった。また、骨組みが多いことで車体重量が重くなり、積載量を十分に確保することができない。さらに、定期的な荷箱の修理や車両の入れ替えが発生することで、維持費等のコスト面もユーザーの負担となっていた。

エコロジーボックス® (E/B®)
写真提供：愛宕自動車工業㈱

この課題を解決したコンテナに「エコロジーボックス®（E/B®）」がある。骨組みなどを減らしつつ強度を保つため、鉄よりも固い鉄と呼ばれ、普通鋼の約4倍の硬度を持つ国産材の『耐摩耗鋼』を母材としている。国産材を使用することで、「①安定した高品質の確保、②安定した鋼材の確保、③安定した原価の確保」を実現した。約5年間使用した車両においても荷箱の膨張はほとんど見受けられず、更に硬度が上がったことにより鋼板自体の薄肉化が可能となり、側面の梁を無くし、縦の骨は空気抵抗に考慮した斜め柱へ構造を変更して、さらにその数を最小限に抑え軽量化を実現した。また積載量の確保にもつながり、輸送効率も向上した。側面の骨が減ったことで、すっきりとシンプルなデザインの大きな側面スペースには、広告面としての機能も生まれた。

【カーボンニュートラルへの貢献】

「2050年カーボンニュートラル社会」の実現に向け、国内鉄鋼メーカーと連携し、CO_2排出量を削減した製鉄プロセスにより製造された材料を母材とすることで、CO_2削減に貢献する。環境問題への意識が高まる中、できるだけ環境負荷の少ない製品の導入を検討するユーザーの要望に応え、またリサイクル資源再生事業者や運送事業者の「LCA(Life Cycle Assessment)」の取組みとしても効果が見込まれる。

カーボンニュートラル対応
写真提供：愛宕自動車工業㈱

Member's Essay
COFFEE BREAK

家族旅行とお城めぐり

新明和工業㈱　設計部　村田 俊樹（むらた としき）

私には小学5年生と小学3年生の息子がいるのですが、長男が中学生にあがると部活などで休日に一緒に出かける機会も減ると思うので、家族旅行など積極的に出かけることを心掛けています。

写真は長野県の戸倉上山田温泉に旅行したときの写真です。

私自身、栃木県に住んでいるので、比較的近い場所ですが旅行先に決めた理由は、私と妻がくつろげる温泉があること、また私はお城を見るのが好きなのですが、近くに荒砥城というお城があったこと、そして子ども達が楽しめる茶臼山動物園があったことです。

荒砥城は天守閣がある派手なお城ではありませんが、門や櫓などが復元されており、山城で砦としての雰囲気があり、城から見おろす景観も良いものでした。またNHK大河ドラマのロケに使用されたこともあります。

茶臼山動物園も高台にあり、こちらも景観がよい場所にあり、初めて来た動物園でしたのでとても新鮮でした。レッサーパンダが有名なのですが子ども達も妻も楽しんでくれました。

今後とも私の好きな城巡りを織り交ぜながら、家族4人が楽しめ、よい思い出となる旅行先を探していきたいと思います。ということで、春先には鳥取、島根への旅行を計画しており個人的には松江城に行けば国宝５城を制覇できるので楽しみです。またカニ食べ放題や「名探偵コナン」の作者の資料館などあるので、家族も興味津々です。

もちろん働かなければ旅行も出来ませんので、家族旅行を励みに仕事も頑張り、両立できるよう続けていきたいと思います。

休日ぶらり旅

マジカル・テクニカ㈱　営業部　企画　鳥羽 優隆（とば ゆたか）

私は休日になると一人でぶらっと出かけます。どこに行きたいという目的は無く、なんとなく思いついた所へいくという感じです。何も計画せずに出かけることは時間を意識しなければならない平日や仕事の日ではできない自由を実感できるとともに、自分のペースで動くことで充実感も得ることができます。友人にもマイペースとよく言われる私にはとても合っている過ごし方だと実感しています。最近は出かける際にカメラを一緒に持っていくことでその時その時のシーンを記録していくことにもハマっています。最近記録したもので面白かったのは枯れ木と枯葉に対して見事に溶け込んでいる野良猫の写真です。

この1人で出かける際（特に遠くに行く場合）にとても重要視していることが一つあります。それは食事です。1人だからこそ何を食べてもよいため、毎回この食事は楽しみにしています。

下北沢に行った時には大きなハンバーガーを売っているお店を見つけて、入店しました。味はもちろんのこととても大きく口いっぱいに頬張って食べました。その他には池袋を散策したのちにサンシャインシティの中にある中華料理店にて美味しそうな担々麺とチャーハンを食べたり、地元の深谷市にて美味しいお蕎麦屋さんで天重とそばのセットを食べました。

休日にカメラをもって散策し好きなものや気になったものを食べるというのは自分にとってとても充実した過ごし方です。普段はスマホを見ることが多く下を向きがちですが、休日という自由な時間に街の音を聞きながら人の流れや風景を見ることで普段は気にかけていないことの発見があったりします。そんな些細なことを楽しむこともなんだか自由って感じがします。

ひと時の休息を実感できるので皆さんもよければ少しでもいいので身近なところからぶらっとお出かけしてみてはいかがでしょうか。

スポーツへの愛を通して子供たちに教えること

オラフォルジャパン㈱　社長　スティーブン カンパ

私たちはみな日々の生活で忙しく、チームやビジネスを管理し、成長させています。一方、私にとり息子2人に集中する時間を作ることも重要な開発プロジェクトとすることで、人生はより意義深いものになります。私は息子たちが生まれたときから日本で育ててきました。彼らが青年になった今、私に対する要求が変わっていることを受け入れなければなりません。父親として、彼らの成長に良い影響を与え続けるために、私も適応しなければならないと感じています。

アメリカンフットボールの写真

息子たちと有意義なつながりを持ち続けられるのは、スポーツへの共通の愛を通してだと思います。観戦でもプレーでも、これらの共通の活動に共通の絆を見つけることができます。学校でレスリングの試合やアメフトや野球の試合がある時には必ず行きます。子供たちが幼い頃はコーチとして、今はチームのフィールド・アナウンサーとして、保護者ボランティアもしています。学校のチーム以外では、日本でも海外でも、お気に入りのチームの試合を観戦するために子供たちを連れて行くことがよくあります。

リグレー・フィールド野球場の写真

過去数年間、私が力を入れてきたことの１つは、一緒にゴルフをすることです。携帯電話に邪魔されることなく、子供たちと６時間過ごせる機会はどれほどあるでしょうか。ゴルフでは、精神的回復力など、人生の重要な教訓を教えることができます。物事がうまくいかないときに落ち込まないこと、物事が順調に進んでいるときに浮かれすぎないことです。また、自分の長所と短所の両方を知る感覚を子供たちに植え付ける過程を通じて、自己改善の方法を見出すことができるようになります。このような準備と絶え間ない改善の努力は、理解を深め、自信を高め、最終的には良い結果につながるでしょう。

家族のゴルフの写真

もちろん、このような教訓はスポーツの域をはるかに超えています。これが私が今そして将来にわたって子供たちに伝えたい真の教訓です。

第21回

会員の誰もが参加できて、SNSの投稿記事を見るような楽しい記事を掲載していきます。皆様のご参加をお待ちしております。

いどばた会議

私のSDGs　Part12

【週末の買い物、徒歩でエコ&ヘルシー】車利用をやめて半年で5kg減量&CO_2削減に成功！

トヨタ自動車九州㈱　廣橋（ひろはし） 由亜（よしあ）

半年間、週末の買い物を車から徒歩に切り替えたところ、大きな変化がありました（往復3km）。

最初はちょっと面倒かなと思っていましたが、慣れてくると散歩気分で楽しい時間に。おかげで運動不足も解消され、なんと5kgの減量に成功！

さらに、ガソリン代の節約はもちろん、CO_2の排出量も減らせて、一石三鳥以上の効果が。心と体にも地球にも優しい“徒歩ショッピング”、今後も続けていきたいと思います。

SDGsの目標14 海の豊かさを守ろう

日産車体㈱　河内（かわうち） 昌夫（まさお）

休日に、日産がRIDE LIFE CARAVANでコラボしたMスポーツ店(茅ヶ崎店)の仲間とサーフィンをします。

ビーチに行くときは、エコな自転車にキャリアをつけてサーフボードを積んで出掛けます。

また、海にはごみが浮遊していて思わぬ怪我に繋がる恐れがあるため、安全にサーフィンをエンジョイできるよう、仲間と茅ヶ崎ビーチクリーンに参加して、環境を考える時間を共有しています。

不要になった洋服はリユースで

㈱コシダテック　大島（おおしま） 剛（つよし）

店頭でよく見かける回収ボックス。

不要な洋服を、再利用できることを知り、定期的に持ち込みしています。

ただ捨てるだけではなく、次の何かの為に。

使わないもの貰うより寄付してみよう

日本ペイント・オートモーティブコーティングス㈱　藤井（ふじい） 摂治（せつじ）

カタログギフト、貰っても欲しいものがないこともありますが、先日貰ったカタログギフトには寄付も選べたので、日本骨髄バンクに寄付しました。

ちょっと社会貢献出来た気持ちになり、お得なギフトになりました。

Fwd:【カタログギフト】お申込ありがとうございました

この度はお申込いただきまして誠にありがとうございます。
お申込内容は以下の通りになります。

お申込日　：　2025/01/30
ID番号　：　5015815792

●お申込内容
PD095-001 日本骨髄バンクへ寄付

・このメールは、「カタログギフト事務局」より自動送信されています。
このメールにお心当たりのないお客様は、大変お手数ですが
サポートセンター（電話 0120-953-747）までご連絡くださいますようお願いいたします。

今後ともお引き立ての程、よろしくお願い申し上げます。

【お問い合わせ】
■リンベル株式会社 カタログギフト事務局
■e-mail：catalog@e-cgift.net
■電話 0120-953-747
（受付時間　午前10時～午後5時）

我が社の元気人

小平産業㈱
総務部
丸山（まるやま） 祐理（ゆり）さん

お金を扱う際には、より慎重に取り組むようにしています

Q1 どんなお仕事ですか?

弊社は製造業ではありますが、私は、“商品の製造以外の全ての業務”を行う総務部に所属しております。仕事内容は、電話・来客対応から、出退勤状況の管理、給与計算、作業着の注文、採用活動など多岐にわたります。部署内で時間を設け、どうしたらよりよい職場環境になるのか話し合いを行うこともあります。

Q2 仕事で楽しいときは

弊社では年に数回イベントがあり、12月にはクリスマスケーキを全ての従業員に1ホールずつ配布します。ケーキの手配から配布まで総務部全体で行います。このようなイベントは、普段関わることのできない社員の方ともコミュニケーションをとることができるので楽しいです。

Q3 仕事でつらいこと

つらいことではありませんが、給与計算等の仕事では、膨大なお金を扱うことになります。1桁のミスが会社全体を巻き込む大問題となってしまう可能性があります。お金を扱う際には、より慎重に取り組むようにしています。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は?

私がきっかけで入社を決めたとお話してくださった従業員の方がいたことです。上司のように上手く採用活動に携わることができていないと感じることが多い中で、そのようなお話をいただけたことが素直に嬉しかったですし、励みになりました。

Q5 御社のPRをしてください！

弊社を身近に感じる方は正直少ないと思います。ふとした時に、ダンプカーやトレーラの荷台の下に是非視線を向けてみてください。『KODAIRA』の赤いマークがありましたら、弊社が製造に携わらせていただきましたお車です!この記事をきっかけに小平産業㈱を、身近に感じていただけていたら嬉しいです。

北海道車体㈱
総務グループ
臼杵（うすきね） 奈夏穂（ななほ）さん

自社のボデーを使用しているのを見かけると嬉しくなります

Q1 どんなお仕事ですか?

勤怠管理や給与計算、入退社等の手続きなどの人事労務をはじめ、書類整理、備品手配等の総務業務を中心に行い、その他伝票の処理や現金の出納管理などの経理業務も行っています。

Q2 仕事で楽しいときは

通勤中や外出時といった街中を車で走る際に前を走っているトラックが自社製のボデーを使用しているのを見かけると思わず「うちで作ったボデーだ」と嬉しくなります。

Q3 仕事でつらいこと

「この業務を進めよう」と思っているところに突発的な業務が入ってきてしまうことがあり、思っていたように業務が進まないことが最初はつらいなと思っていました。

経験を積んできたことで今では自分の中で「こうしていこう」と切り替えて業務を進められるようになり、少しではありますが成長できているのかなと思います。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は?

従業員の方々と直接関わる機会が多い業務を担当していることもあり、何か小さなことでも「ありがとう」と言ってもらえると、この業務を担当していて良かったなとやりがいを感じることが多く有ります。その一言がまた頑張ろうというモチベーションにもなっています。

Q5 御社のPRをしてください！

北海道車体㈱では、お客様からの多様化していくニーズに対応すべく「オーダーエントリーシステム」を採用し、設計から製造・検査までを一貫して行い、様々な仕様のトラックボデー等の架装をしています。60年以上の年月で培ってきた技術と経験をもとにお客様の期待に応えていけるよう、これからも務めていきたいと思います。

2024年4月～2025年1月　会員生産状況概要

① 合計（非量産車+量産車）
- 4月～1月の累計台数は、前年比1.6%減と、2年ぶりの前年割れ

② 非量産車合計
- 4月～1月の累計台数は前年比3.7%増と2年連続の前年超え

③ 特装車
- 4月～1月の累計台数は、前年比8.3%減と2年ぶりの前年割れ
- 作業系・その他は同0.9%増、輸送系は同10.9%減、輸出向けは同11.4%減

④ 特種車
- 4月～1月の累計台数は、前年比36.9%増と2年連続の前年超え
- 車いす移動車が同71.6%、緊急用が同10.3%、その他が24.6%すべて増加

⑤ 平ボデートラック（除シャシメーカー標準トラック）
- 4月～1月の累計台数は、前年比5.8%増と2年連続の前年超え
- 大型は同2.6%、中型は11.7%、小型・軽は同4.7%すべて増

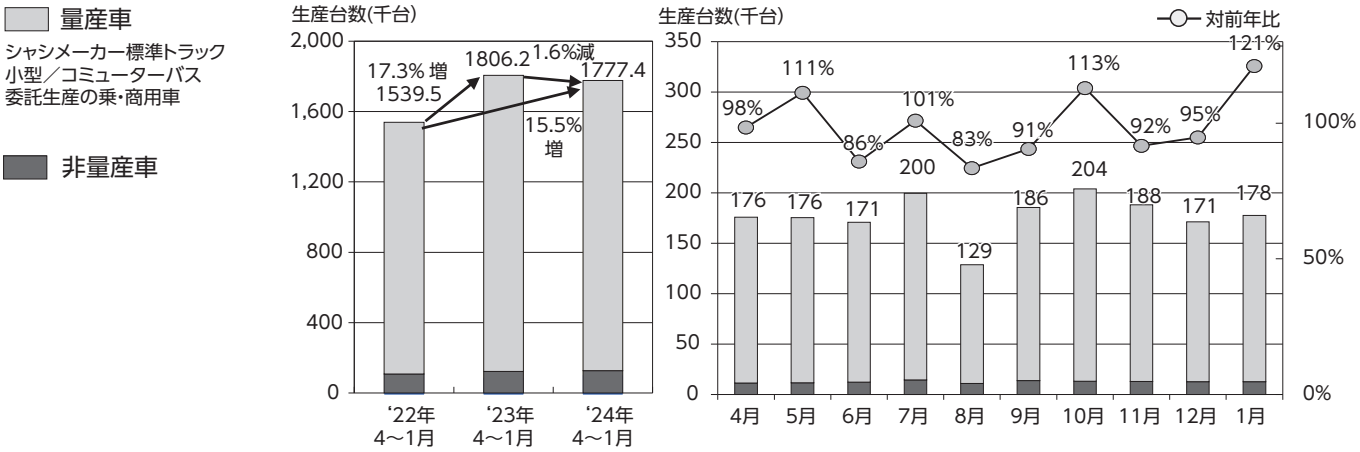
⑥ バン
- 4月～1月の累計台数は、前年比7.1%増と2年連続の前年超え
- バン（除く冷凍・保冷車）は同3.7%増、冷凍・保冷車は同13.9%増

⑦ トレーラ
- 4月～1月の累計台数は、前年比3.3%減と5年連続の前年割れ
- 平床が同0.7%減、バンが3.4%減、コンテナが同6.4%減、その他が1.2%減

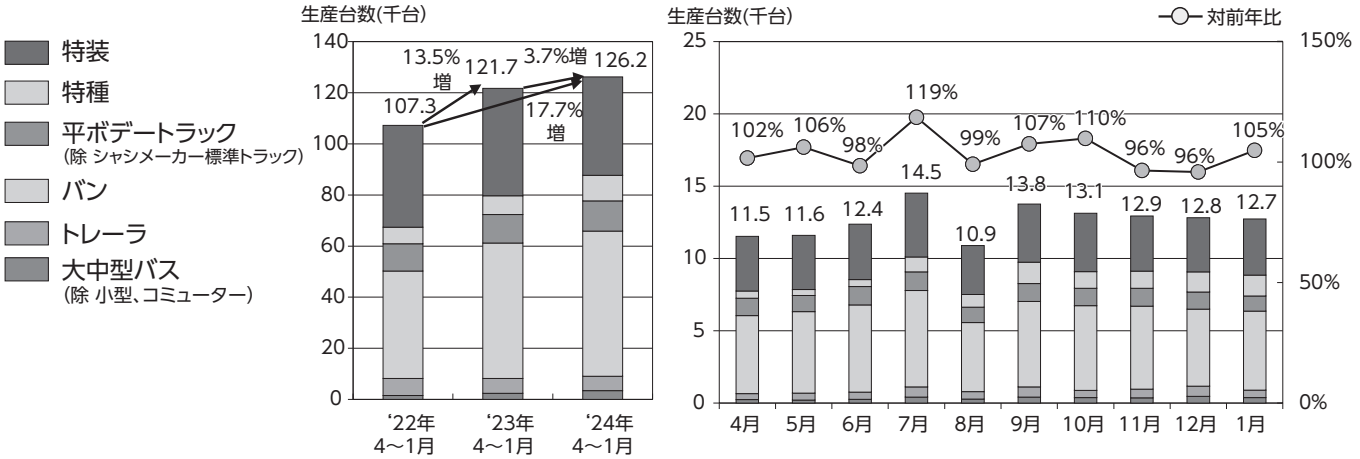
⑧ 大中型バス
- 4月～1月の累計台数は、前年比44.7%増と2年連続の前年超え
- 路線は同23.8%増、観光は同172%増、自家用は同5.9%増

⑨ 乗用・小型商用・軽
- 4月～1月の累計台数は、前年比2.8%減と2年ぶりの前年割れ
- 国内向けは同8.9%減、輸出向けは同2.4%増

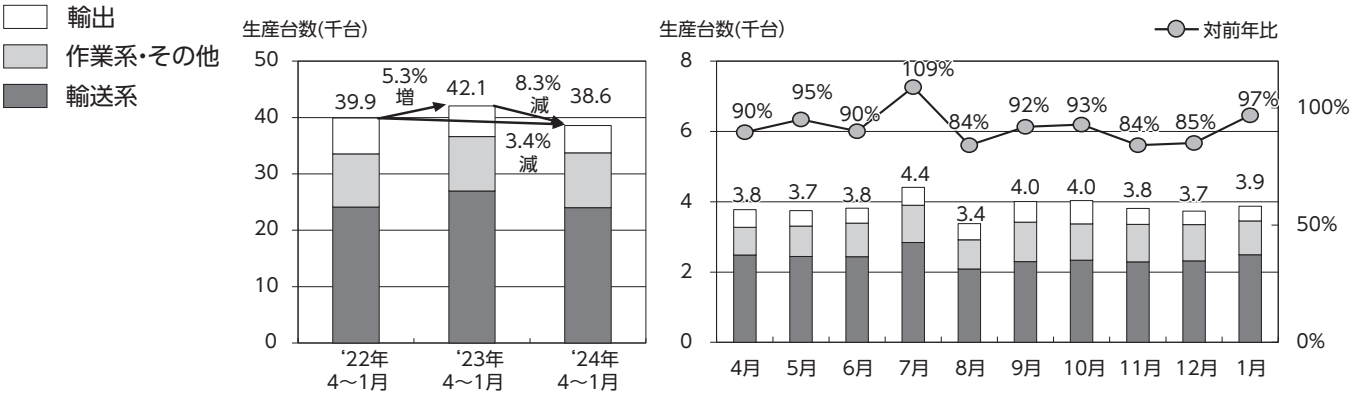
合計（非量産車＋量産車）



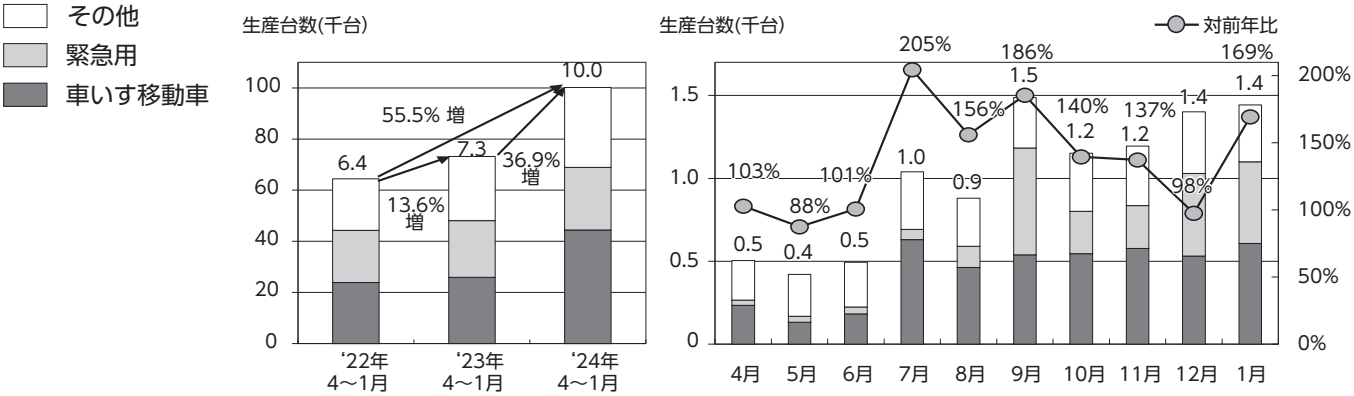
非量産車合計



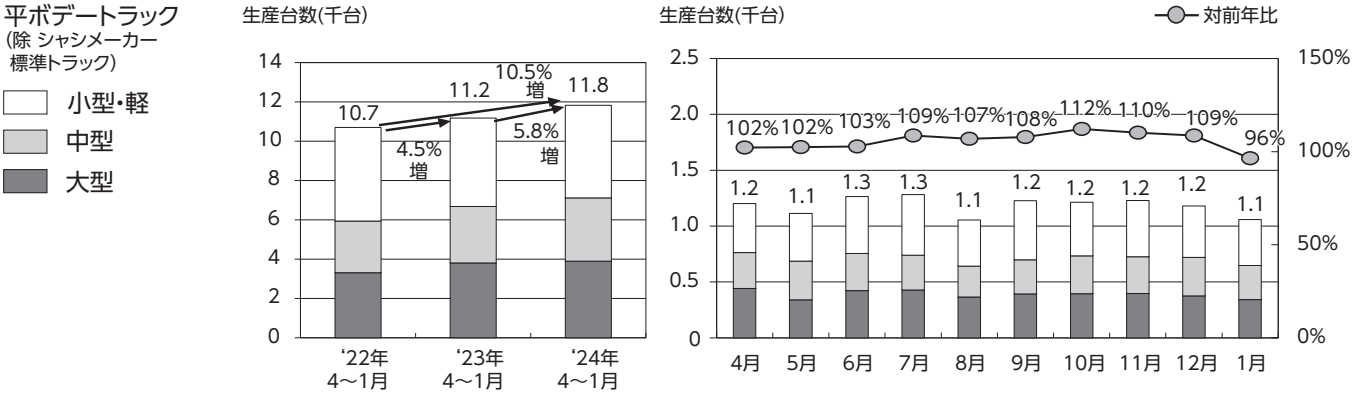
特装車



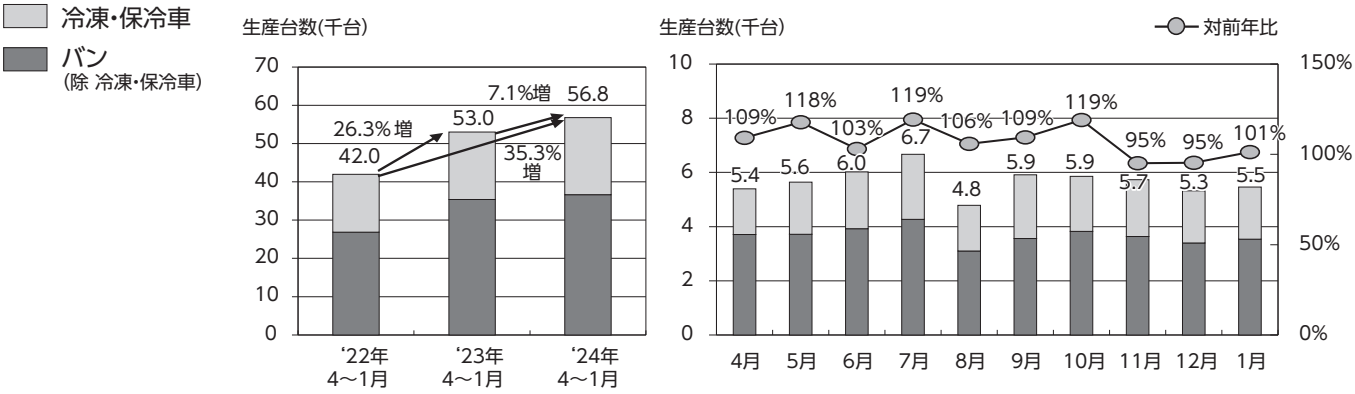
特種車



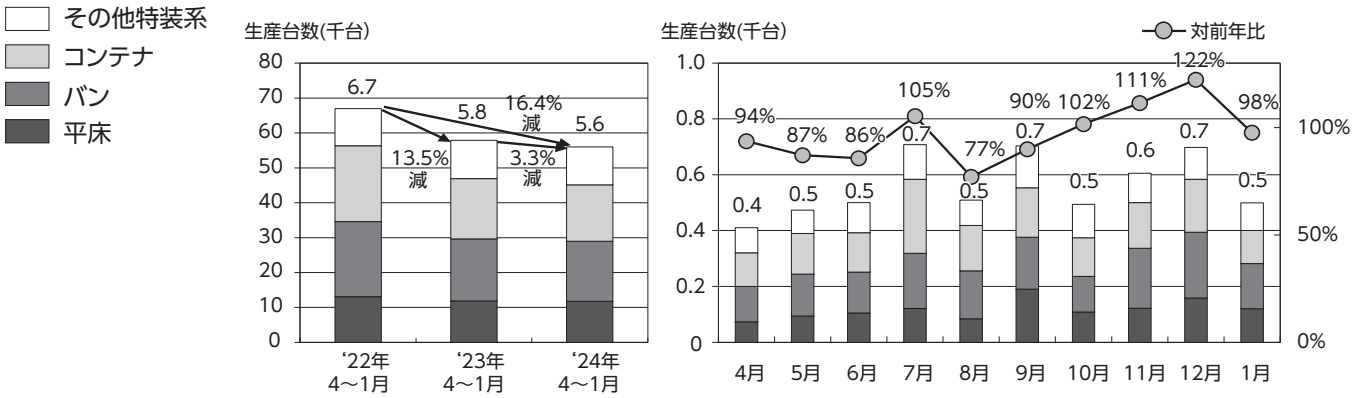
平ボデートラック（除 シャシメーカー標準トラック）



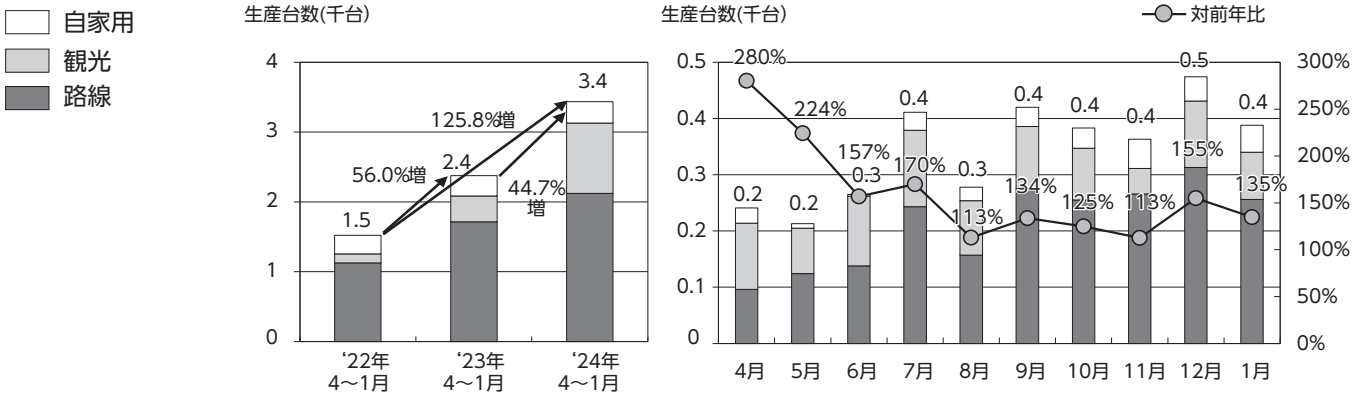
バン



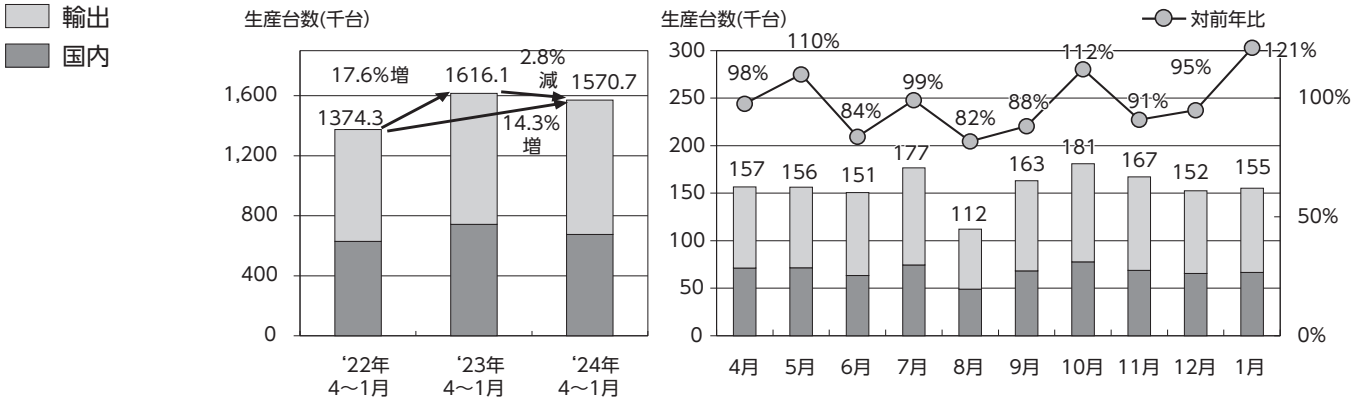
トレーラ



大中型バス



乗用・小型商用・軽



車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動に伴う業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

https://www.jabia.or.jp/data/index.php

編集後記

当会のコンプライアンス遵守に向けた活動について、先号でも触れたとおり、競争法に関連する規程を策定し、1月末に会員の皆様に展開させていただいた。事業者団体活動自体が、競争法に抵触するリスクを包含するとの指摘もある中で、改めて襟を正して当会活動を進めたい。

さて、2025年がスタートし、早くも2か月が経過した。昨年は震災や航空機事故で幕が開け、オリパラ、酷暑、大谷選手など激動の一年であったことと比べると、東北、北陸地方の豪雪等あるも、比較的穏やかにスタートしたように感じる。世界では、トランプ氏の第2政権が発足し、ロシアのウクライナ侵攻に関する調停や関税追加等、不透明な状況は継続している。

今号で特に注目すべきは、資材部会に新規に入会された㈱東海理化のVOICE記事であろうか。バスの自動運転時代に対応したAIへの取組みは、バス車内の事故防止だけでなく、運転士の口頭注意による乗客とのトラブルや、延いては退職防止にも繋がるとして、早期の実用化が待たれる。まだまだ先に感じていた当会とAIとの距離感が縮まってきたように思う。

また、2月には、昨年末にご逝去された矢野羊祐様のお別れの会が福岡市内で行われ、小職も会長の代理として出席させていただいた。当会矢野副会長のご実父であり、長年にわたり理事として九州支部長を務めていただいた。全国から500名近い参列者が訪れ、羊祐様を偲ぶ時間となったことをご報告させていただく。

2024年度もあと少しである。真冬の寒さが続いたかと思えば、数日で4月並みの陽気という、まさに三寒四温の季節でもあり、その繰り返しの中で春へと向かう。少しずつ積み重ねてきた当会の改善も、下を指さない程度には、そのベクトルの向きが固まりつつあるように思う。東京勤務も6年目に突入したが、まだ見ぬ名所も多くある。桜の季節に少しでも味わっておきたい。

（板倉）

表紙写真について

特装部会

豊和工業㈱製

「ブラシ式路面清掃車」

本車両は左右側面のブラシでゴミを掻き集め、車両後方のブラシでゴミを回収する「ブラシ式」と呼ばれる方式の路面清掃車です。道路清掃だけでなく道路のアスファルト張替え工事にも使用されています。

道路清掃時に左の路肩が見やすいように左ハンドル車とし、作業装置を車両下側に架装するため、マフラーをキャブ後方に縦型に配置している特殊な車両です。

※写真はダンプにゴミを載せ替える様子を映したものになります。

お　知　ら　せ

■通常総会のご案内

◆日　時：**2025年5月23日㈮** 15:30～

◆場　所：**グランドプリンスホテル高輪「プリンスルーム」＋Web併用**

東京都港区高輪3-13-1　TEL：03-3447-1111

◆議　題：2024年度事業報告と2025年度事業計画の承認、2024年度決算報告と2025年度予算案の承認 等

◆申込み：会員へメール配信する用紙、又は当会ホームページの新着情報に4月掲載予定の用紙にてお申し込みください。

問い合わせ先　日本自動車車体工業会 総務部　TEL. 03-3578-1681

この会報「車体NEWS」は、主として法令改正等含めた自動車車体にかかわる情報をとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車技術総合機構、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

車体NEWS
SPRING 2025 春

2025年3月15日発行
発行所　一般社団法人　日本自動車車体工業会
〒105-0012　東京都港区芝大門1-1-30
TEL.03-3578-1681　FAX.03-3578-1684
発行人　板倉　範顕

広告掲載会社

中京車体工業株式会社…… 表2
スリーエム ジャパン株式会社 …… 表3
ワイズマン株式会社 …… 表4

架装物の安全点検制度

架装物の定期点検で『SDGs』に貢献

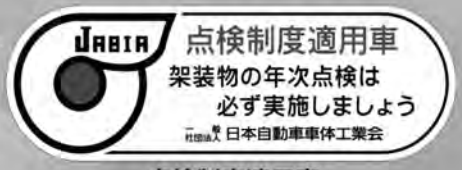
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

環境にやさしい未来をつくる働く車
未来の子ども達に美しい地球を
のこすため「豊かな環境保全」には
定期点検整備が必要です。
定期点検整備を実施した事を証明する
『架装物年次点検【済】』ステッカーです。

安全・安心・信頼の証　ステッカー!!

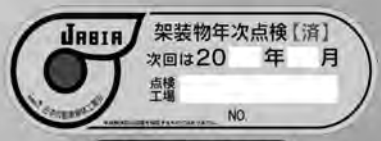
※　新車時　『点検制度適用車』ステッカー

品質保証付き

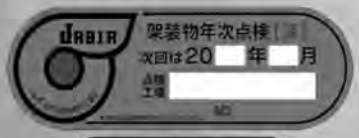


点検制度適用車

※　点検時　『架装物年次点検【済】』ステッカー



2023年（黄色）



2024年（水色）

2025年（黄緑色）

一般社団法人 日本自動車車体工業会　中央技術委員会　点検整備推進分科会
Japan Auto-Body Industries Association Inc.
https://www.jabia.or.jp/

トレーラ火災にご注意！

トレーラの装置別不具合

制動

ブレーキ・チャンバ、スプリング・チャンバ
ダイヤフラムの劣化、スプリングの折損、
ブレーキ・ホースや継ぎ手の劣化

リレー・エマージェンシ・バルブ
エアフィルターの目詰まり、パッキン類の劣化
不純物や水分凍結によるリレー部目詰まり

オートマチック・スラック・アジャスタ、ブレーキシュー
ゼロ点調整不良、リターンスプリングの劣化
シューベアリング部の潤滑不良

走行

車軸, ホイール, ハブ
ベアリング部の潤滑不良、
アクスルナットの締付トルク不良

→ エア圧力低下
ブレーキ引き摺り

→ ブレーキ戻り不良
ブレーキ引き摺り

→ 回転不良
摩耗

→ **発火**

↓

適切な点検整備を行うことが車両火災の防止に有効です

一般社団法人 日本自動車車体工業会 トレーラ部会
Japan Auto-Body Industries Association Inc.

ご存知ですか、このラベル。

環境にやさしい働くクルマに付いてます。

“環境基準適合ラベル”

環境基準適合ラベルは、架装物解体作業の容易化、再生資源の適正な処理を促進する
“環境にやさしい車体”であることを証明する車体工業会で制定したラベルです。

JABIA 適 一般社団法人 日本自動車車体工業会・環境基準適合

JABIA 適 一般社団法人 日本自動車車体工業会・新環境基準適合

環境基準適合ラベル
ホワイトラベル
環境に配慮した3つの要件

適合要件
- ●3R（リデュース・リユース・リサイクル）判断基準ガイドラインの作成・活用
- ●製造者名、樹脂部品材料名の表示
- ●解体マニュアルの作成・公開

新環境基準適合ラベル
ゴールドラベル
ホワイトラベルにさらに3つの要件を追加

追加要件
- ＋ 車体製品部材のリサイクル可能率95%以上
- ＋ 車体工業会における「環境負荷物質自主取組み基準」を満たしている
- ＋ ISO14001やエコアクション21など第3者機関による環境認証取得工場で生産

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

12 つくる責任 つかう責任

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

環境省ホームページ「環境ラベル等データベース」へ登録され掲載されています。https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/a04_48.html

一般社団法人 日本自動車車体工業会
Japan Auto-Body Industries Association Inc.
東京都港区芝大門1丁目1番30号　日本自動車会館15階　TEL(03)3578−1681　FAX(03)3578−1684

詳しくはWebページをご覧ください。

JABIA 検索

www.jabia.or.jp

防ごう 大型車の 車輪脱落事故

事業者、ドライバー、整備工場の皆さんの協力をお願いします。

お・と・さ・な・い

おとさぬための点検整備

事前の正しい点検が大きな事故を未然に防ぐ唯一かつ最善の手段です。

トルクレンチで適正締付

適正なトルクレンチによる規定トルクの締め付け、タイヤ交換後の増し締めの実施。

動画をチェック!

正しい点検方法や連結式ナット回転指示インジケーターの使用方法をご案内しています。

さびたナットは清掃・交換

ディスクホイール取付面、ホイールナット当たり面、ハブの取付面、ホイールボルト、ナットの錆やゴミ、追加塗装などを取り除きます。

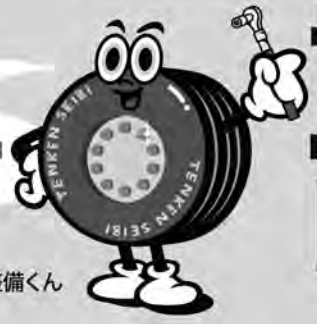
ナット・ワッシャー隙間に給脂

ホイールボルト、ナットのねじ部と、ナットとワッシャーのすき間にエンジンオイルなど指定の潤滑油を薄く塗布し、回転させて油をなじませてください。

いちにち一度は緩みの点検

運行前に特に脱落が多い左後輪を中心に、ボルト、ナットを目で見て手で触って点検します。

「お・と・さ・な・い」を**徹底**しよう!



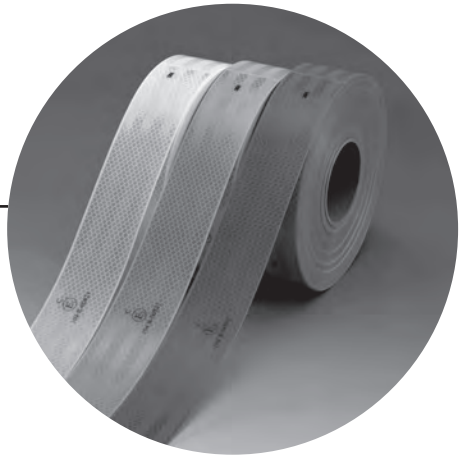
Mr. 整備くん

詳しい情報は日本自動車工業会ホームページへ
https://www.jama.or.jp/truck-bus/wheel_fall_off/

国土交通省　自動車点検整備推進協議会　大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会　日本自動車工業会(いすゞ自動車　日野自動車　三菱ふそうトラック・バス　UDトラックス)
全日本トラック協会　日本バス協会　全国自家用自動車協会　日本自動車整備振興会連合会　日本自動車販売協会連合会　全国タイヤ商工協同組合連合会　日本自動車タイヤ協会
全国石油商業組合連合会　日本自動車車体工業会　日本自動車輸入組合　日本自動車機械器具工業会　自動車用品小売業協会　日本自動車車体整備協同組合連合会

美しさと安全性の両立

Beauty & Safety スリーエムからの提案です。



夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング（線状再帰反射材、輪郭再帰反射材等）が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した（※Eマーク付）3M™ダイヤモンドグレード™コンスピキュイティ反射シートを提供しています。

また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカル™フィルム、コントロールタック™ コンプライ™グラフィックフィルム、プリントラップフィルム等の施工性に優れた製品を提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。

3M™ダイヤモンドグレード™
コンスピキュイティ反射シート

3M™プリントラップフィルム IJ280

3M™ ダイヤモンドグレード™ コンスピキュイティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反性反射効果を備えたプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約７年です。（当社ガイドライン通りに貼付された場合）。

事故減少に対するコンスピキュイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

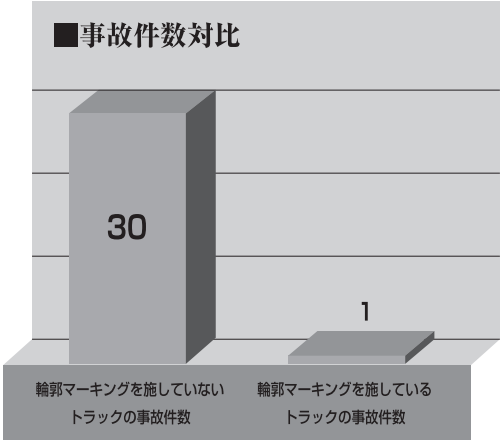
■ヨーロッパにおける研究報告

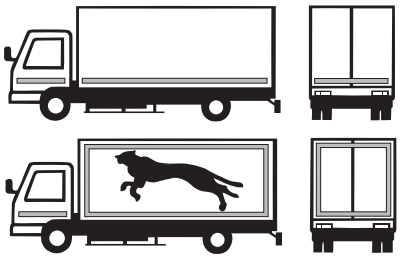
●夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約４０%が”みられやすさ”（コンスピキュイティ）不足により発生している。

●再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約 1/30 だった。

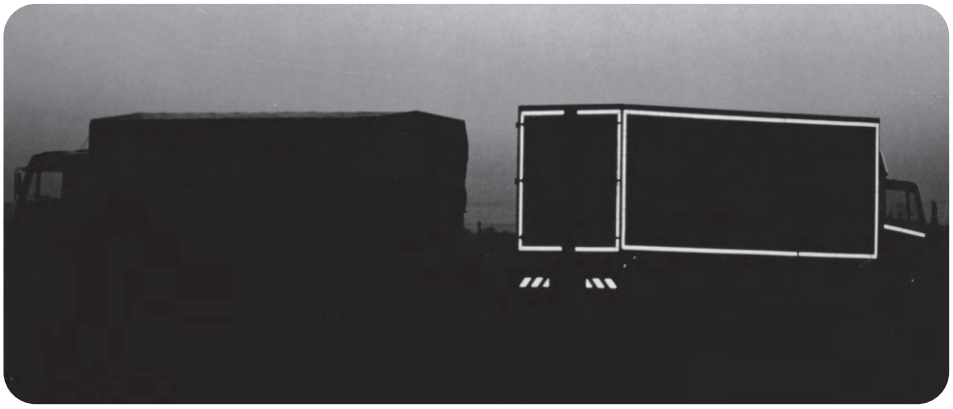
■米国における研究報告

●再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約３０%減少させた。特に夜間では約４０%減少させた。





Eマークとは:国際的な車両型式認証の相互承認制度（IWVTA）に基づき、協定規則の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入り製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示 第55条の2」に定められている基準に適当している製品です。



スリーエム ジャパン株式会社
コマーシャルブランディング&トランスポーテーション事業部

本社　〒141−8684　東京都品川区北品川6丁目7番29号
電話　03−6409−3388
URL　https://www.mmm.co.jp

好評!

生産物賠償責任保険　生産物回収費用補償特約

日本自動車車体工業会 団体PL保険制度

自動車メーカーだけではなく、車体メーカー、部品メーカーも責任を問われる時代です。

随時加入申込受付中

車体工業会会員の皆さまのための専用の保険制度

JABIA

ご要望にお応えして

スケールメリットを生かした割安な保険料

他社で加入されている契約の現在設定されている遡及日継承が可能となりました!

制度の趣旨

■(一社)日本自動車車体工業会の会員の皆さまのためのPL保険制度です。
■PL保険制度はPL事故および架装等が原因で生じた賠償事故の損害に対応します。
　車体工業会のスケールメリットを活かした制度で多くの会員の皆さまにご利用いただいております。
■今年度新設したリコール・オプション(生産物回収費用補償特約)もぜひご検討ください。
■この広告は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパン営業店までお問い合わせください。

お気軽にご相談ください

取扱代理店:
〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町1-4-1　内山ビル2F　株式会社ワイズマン　東京支店
TEL. 03-5623-6455　FAX. 03-5623-6488
ご相談用メールアドレス:jabiahoken@wiseman.gr.jp
引受保険会社:
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1　損害保険ジャパン株式会社 営業開発部第一課
TEL. 03-3349-3322　FAX. 03-6388-0155

SOMPO　損害保険ジャパン株式会社

SJ24-04981　2024.07.24